

大和市の防災力を向上させるためのアイデア編



# やまと市民討議会

## 報告書

(平成 28 年度 第 2 回)

平成 29 年 1 月

大和市



## 目次

<b>1. 開催概要</b> .....	<b>2</b>
(1) 本事業の目的 .....	2
(2) 当日のプログラム .....	3
<b>2. 討議会の内容</b> .....	<b>4</b>
(1) 大和市の防災対策について .....	4
(2) 市民討議会の進め方 .....	4
●話し合いのお約束.....	4
●付箋の書き方のポイント.....	4
(3) 午前の意見交換   ワールドカフェ .....	5
●進め方.....	5
●流れとまとめ.....	7
●詳細結果.....	8
(4) 午後の意見交換   ワークショップ .....	24
●進め方.....	24
●流れとまとめ.....	26
●詳細結果.....	28
<b>3. 参加者アンケートのまとめ</b> .....	<b>53</b>
<b>4. 市民討議会の写真</b> .....	<b>60</b>
<b>5. 大和市の防災対策について [ 参考資料 ]</b> .....	<b>61</b>

# 1. 開催概要

## (1) 本事業の目的

今後いつ見舞われるかもしれない「災害」に備え、大和市の防災力を向上させるためのアイデアについて、市民の方々からご意見をいただき、市の取り組みの参考とするため、平成28年11月20日(日)に「やまと市民討議会」を開催しました。

開催にあたっては、普段、市に意見を述べる機会の少ないいわゆる「サイレントマジョリティ」と言われる方々に参加していただくため、無作為抽出した市民3000名に案内を送付しました。

当日は、お申し込みいただいた21名と市内高等学校6校から生徒12名に参加していただきました。



## (2) 当日のプログラム

日時：平成28年11月20日（日）

場所：大和市役所地下1階 食堂（大和市下鶴間1丁目1番1号）



小田急江ノ島線「鶴間駅」からのアクセス:

【徒歩の場合】鶴間駅東口から約12分

【バス利用の場合】約5分

（「鶴間駅東口」乗車、「オークシティ前」下車 徒歩約3分）

小田急江ノ島線「大和駅」からのアクセス:

【バス利用の場合】約10分

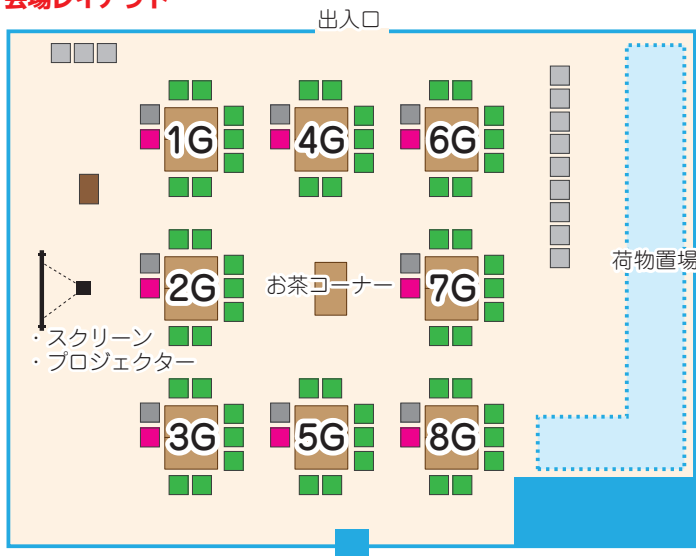
（「大和駅西口」乗車、「市役所市立病院前」または「市立病院」下車 いずれも徒歩約3分）

\*できるだけ、公共交通機関をご利用いただきますよう、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

\*車を利用してお越しの際は、市役所本庁舎または保健福祉センターの駐車場をご利用ください。

・市民討議会は公開して行いました。

### 会場レイアウト



## 2. 討議会の内容

### (1) 大和市の防災対策について

市職員から、大和市が行っている防災対策について、説明を行いました。



### (2) 市民討議会の進め方

コーディネーターから討議の進め方について説明を行いました。

討議は、自由な意見を出し合うために、少人数で意見交換を行うグループワーク形式で実施しました。



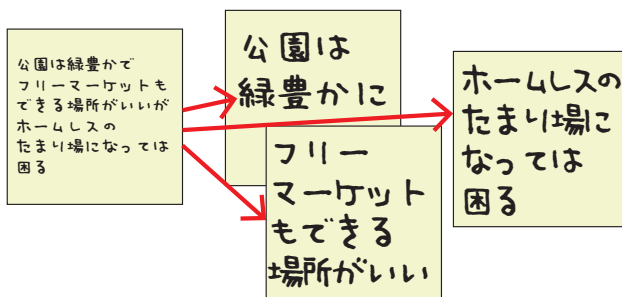
#### ●話し合いのお約束

次のことを、話し合ううえでの約束事項としました。

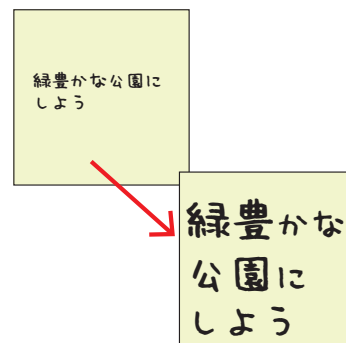
1. 全体の進行がスムーズにいくように協力しましょう
2. たくさんの事を言いたい時でもなるべく多くの方が議論に参加できるように配慮しましょう
3. 他の人の意見を否定したりせずに、いろいろな考えの人がいることを理解しましょう

#### ●付箋の書き方のポイント

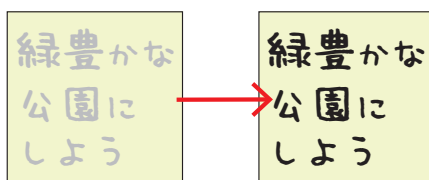
##### ・1枚に1つのことを書く



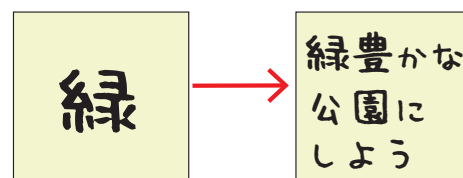
##### ・できるだけ大きな文字で書く



##### ・配布しているサインペンを使って書く



##### ・単語ではなく、何をどうしたいかがわかるように書く



## (3) 午前の意見交換 | ワールドカフェ

### ●進め方

- ・大和市の自助・共助・公助の課題を出し合い、防災力を高めるためのキーワードや理想の姿について議論しました。
- ・討議は4～5人のグループに分かれて、3つのテーマについてワールドカフェ方式で意見交換を行いました。

### 【ワールドカフェとは】

「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいて、1995年にJuanita Brown（アニータ・ブラウン）とDavid Isaacs（デイビッド・アイザックス）によって開発された話し合い（対話）の手法です。

テーマ①：あなたが取り組んでいる防災対策を出し合おう

テーマ②：大きな地震の時の心配ごとを出し合おう

テーマ③：自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを出し合おう

## 午前の進め方 (10:50~12:30)

4~5人で席替えしながら3つのテーマについて意見交換します

### 1) 8つのテーブルに分かれて座ります

名札にお示したグループにご着席ください。

### 2) ヒトコト自己紹介

プロフィールシートを使って自己紹介をします。

### 3) テーマ①: あなたが取り組んでいる防災対策を出し合おう

思いついたことを何でも出し合ひましょう。

### 4) テーマ②: 大きな地震の時の心配ごとを出し合おう

### 5) 出し合った意見を書き出そう

テーマ①は青の付箋に、テーマ②にはピンク色の付箋に一人3枚ずつ書いて貼り出しましょう。.....→

### 6) 席替え

名札に示した座席情報をもとに移動します。

### 7) 前のグループの振り返りと自己紹介

前のテーブルで話したことを振り返り共有します。

### 8) テーマ③: 自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを出し合おう

テーマ①、テーマ②の話し合いの成果や、大和市からの情報提供をうけて、意見を出し合ひます。

### 9) 出し合った意見を書き出そう

黄色の付箋に一人3枚ずつ書いて貼り出します。.....→

### 10) グループのベスト意見を選び発表しよう

他のグループに聞かせたい意見4つにシールを貼り、発表者を決めて発表します。

#### テーマ①②のまとめシート

グループ **防災対策の課題をみんなで共有しよう!** メンバー

テーマ1 あなたの防災対策を出し合おう!

テーマ2 大きな地震の時の心配ごとを出し合おう!

自助

共助

公助

#### テーマ③のまとめシート

グループ **防災対策の課題や未来を考えよう!** メンバー

テーマ3 大和市の防災対策の自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを出し合おう!

自助

共助

公助

ベスト4にシールを貼る

## ●流れとまとめ

- ・3つのテーマについて8つのグループで話し合っていました。参加者のみなさんの意見をまとめると、次のとおりです。

あなたが取り組んでいる 防災対策を出し合おう	大きな地震の時の 心配ごとを出し合おう	自助・共助・公助の課題や 大切なキーワードを出し合おう
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガスボンベ、ラジオ、ライトなどの防災グッズや水、食料などの備蓄品を準備している</li> <li>・家具の転倒防止や窓ガラスの飛散防止をしている</li> <li>・集合場所や伝言ダイヤル、ペットの担当など、家族でルールを決めている</li> <li>・自治会の防災活動（避難訓練、高齢者安全確認）に参加している</li> <li>・市の防災メールに登録している など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通がマヒして帰宅困難者になる可能性がある</li> <li>・高齢者、障がい者、外国人が円滑に避難できるか心配</li> <li>・家が倒壊していないか、修理費用も心配</li> <li>・避難生活が長期化した場合、小さい子どもやお風呂・トイレ、薬、ごみが心配</li> <li>・防災放送などの情報伝達手段があるか心配 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな子どもや障がい者、ペットなどの支援を必要とする人に日ごろから気を配ることが大切</li> <li>・無関心な人にも情報発信や意識啓発を効果的に行う必要がある</li> <li>・耐震化が必要だが、コストがかかるので補助が充実するとよい</li> <li>・SNS や LINE の既読機能を効果的に活用して安全確認ができるとよい</li> <li>・帰宅困難者対策のために、ルートの確認や移動手段の確保が大切 など</li> </ul>

## ●詳細結果

1 グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)	
防災対策の課題をみんなで共有しよう！	
テーマ1：あなたが取り組んでいる 防災対策を出し合おう	テーマ2：大きな地震の時の心配ごと を話し合おう
<p><b>【外での決めごと】</b></p> <p><b>家族との決め事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害伝言ダイヤル使用</li> <li>・各自いる場所で最善を</li> </ul> <p><b>常に準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に充電器（太陽光）持ち歩き</li> </ul> <p><b>【自宅で決めごと】</b></p> <p><b>食料などの備蓄</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄（食料・水）の購入・消費による回転</li> <li>・家の床下に備蓄（避難グッズを）</li> <li>・当面の食料・水・電気</li> </ul> <p><b>ライフラインの確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電源不要の水道の維持</li> </ul> <p><b>転倒防止対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倒れるようなものをなるべく置かない</li> </ul> <p><b>火災の対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレーカー「断」ボールの設置</li> <li>・いらぬものを常に捨てておく</li> </ul> <p><b>【常に心がける・気に留めておくこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある方を心に留める</li> <li>・長期化対策 食事 宿泊 個人でできることと共助、公助も考える</li> </ul>	<p><b>起きてすぐの心配</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家に残したペットが気になる</li> <li>・（家族や友人と）連絡がつかなくなる</li> <li>・自宅の倒壊</li> </ul> <p><b>自宅での不安・心配</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暗さの心細さ 防犯</li> <li>・お風呂に入ることができなくなる（避難所の不安・心配でもある）</li> </ul> <p><b>避難所の不安・心配</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所のプライバシー／トラブル</li> <li>・いつ日常に戻れるのか</li> </ul> <p><b>避難生活の長期化への不安・心配</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難の長期化 日常生活の支援も必要となる……対策としては（日常生活を支援）</li> <li>・長期化した時の食事や宿泊に公助はあるか</li> </ul>

**テーマ3：自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを話し合おう****【自助】****個人の対策**

- ・プロパンガスを維持する
- ・食料・水の備蓄

**一人でのいるときの不安**

- ・遠征して帰れなくなった時の不安
- ・SNSもつながらなくなった時の対処

**個人での情報収集**

- ・実は災害用に使える LINE を使う

**【自助・共助】****火災の対策**

- ・火災を出さない
- ・みんなで「火事を起こさない！」ようにする

**防犯の対策**

- ・小さな灯火を考えられれば

**【共助】****地域の情報入手**

- ・（地域の情報が得られておらず）共助のうちで自分にできることが想像できない
- ・万が一の場合の要介護者リストの作成 自治会+アパート
- ・町内の情報や知識を知らない

**【共助・公助】****防災訓練**

- ・学校の防災訓練は年1回（効果が薄い）
- ・町内の避難訓練がない
- ・防災訓練が年に1回ではだめ最低2か月に1度程度

**救援物資**

- ・救援物資のスピーディーな配達およびその分配系統
- ・支援物資に関するトラブル（救援物資が重なってしまうなど）

**公的な情報**

- ・実際起きた時の情報伝達
- ・早期指示のタイミング
- ・地層の情報公開



## 2グループ（太字はまとめ、細字は個別意見）

### 防災対策の課題をみんなで共有しよう！

#### テーマ1：あなたが取り組んでいる 防災対策を出し合おう

##### 防災グッズを準備

- ・自宅に防災グッズを準備しておく
- ・職場にも防災グッズを準備しておく
- ・防災グッズを日常的に使いながら補てんしていく
- ・保存食は日常的に食べながら保管する
- ・常に電灯やスマートフォン充電器を持ち歩いている

##### すぐに逃げられる準備

- ・職場にスニーカーを置いておく
- ・逃げやすいようにスニーカーを準備
- ・災害時に歩いて帰宅するため、靴底が平らな靴を履く

##### 災害時の約束事

- ・家族で集合場所を決めておく
- ・集合場所を事前に決める
- ・ペット保護の担当を決めている

##### 家具の転倒防止

- ・家具の転倒防止をしておく
- ・「ハウスマンテ大和」がボランティアで実施している

##### ペットの保護

- ・ペットの保護をどうするか

#### テーマ2：大きな地震の時の心配ごと を話し合おう

##### 自宅の要支援者の心配

- ・自宅の要支援者が一人のときに震災が起きたときが心配
- ・自宅の要支援者が心配
- ・震災後の介護のことも考えなければならない
- ・仕事や学校以上に家族のことが心配

##### 子どもの心配

- ・児童クラブ等のマニュアルがきちんと決まっていない
- ・児童クラブ等のマニュアルが現場判断まかせになっている
- ・マニュアルがない。マニュアルがあっても実際にその通りに動けるか心配
- ・子どもの無事や安全

##### 学生の不安

- ・学校と家族の判断が一致していないとき

##### 情報弱者への対応の不安

- ・職場での外国人とのコミュニケーション
- ・情報弱者にどう伝達するか

##### 帰宅手段の不安

- ・自宅に帰る手段があるかどうか



**テーマ3：自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを話し合おう****【自助】****日常の備え**

- ・災害時の避難場所を把握しておく

**日常のひとつ進んだ備え**

- ・家具転倒防止など
- ・大きな家具を置かない

**防災対策に対する意識向上**

- ・防災マップをきちんと読み込む
- ・防災について自分自身がもう少し考える必要があると気が付いた
- ・自分が使ってよかった防災用品を、親戚や近所の方に広める（お店で見ても迷い買わないで帰ってくる人が多いため）
- ・防災に対し、知らないし関心がないこともあり、災害に備えるための情報にアクセスできない

**独居の方への対応**

- ・今まで会社勤めをしていた人の定年後は特に心配

**経済的準備**

- ・住宅や家財の罹災後、経済的再建のための準備

**【共助】****日頃からの近隣とのコミュニケーション**

- ・近隣とのコミュニケーションがとれていないと一番困ると感じる
- ・近隣とのつながりが薄いと、災害時に助け合うことが難しい
- ・新聞が溜まったら娘に電話して欲しいと事前に近隣の方に伝えている
- ・近隣の方の生活環境への気遣いが必要
- ・地域ごとにSNSなどのつながりを持つ

**日頃の近隣コミュニケーションが取りづらい方との関係性づくり**

- ・引っ越ししてきた方や、会社勤めをしている方は、地域に根付きにくい
- ・自治会から自主的に抜ける方もいる
- ・日常的に近隣の方と会話がないうし、近所付き合いの関係性の築き方がわからない
- ・そもそも日常的に表に出ない方とのコミュニケーションのとりかたをどうするか

**近隣とのコミュニケーションのきっかけづくり**

- ・新聞配達や郵便局の職員が個別に訪れるなど、仕事関連の方を組み合わせるのはどうか
- ・家族に小学生がいると、子どもの話題を通じて近隣との付き合いが発生しやすいので、それを活用できないか

**【公助】****防災対策情報の周知**

- ・防災マップや防災の手引きの配布を徹底する（防災マップは全戸配布）
- ・防災対策について、様々な関心度の住民にどのように万遍なく伝えられるか

**経済的支援**

- ・被災者への経済的支援が必要

<b>3グループ（太字はまとめ、細字は個別意見）</b>	
<b>防災対策の課題をみんなで共有しよう！</b>	
<b>テーマ1：あなたが取り組んでいる防災対策を出し合おう</b>	<b>テーマ2：大きな地震の時の心配ごとを話し合おう</b>
<p><b>いざという時の集合場所を確認する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の集合場所を決めておく</li> <li>・家族と話し合い、集合場所を決める</li> <li>・集合場所の確認</li> <li>・家族で災害について話し合っておく</li> </ul> <p><b>地域とのつながりを作る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会等の地域の繋がりを作る</li> <li>・自治会活動（自主防災会活動）</li> </ul> <p><b>水・食料の備蓄をする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅に3日分の水・食料を備蓄</li> <li>・食料・水を備蓄しておく →自治会に備蓄あり</li> </ul> <p><b>懐中電灯を用意する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の緊急用ライトを用意</li> <li>・水や懐中電灯などの準備</li> </ul> <p><b>耐震用品を用意する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・突っ張り棒などによる家具の固定</li> <li>・耐震用品で防ぐ工夫をする</li> </ul> <p><b>情報収集をする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段からの情報収集</li> </ul>	<p><b>家族との連絡がつかなくなる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族との連絡</li> <li>・家族との連絡がつかなくなってしまう</li> <li>・連絡がとれない</li> </ul> <p><b>避難場所はどこか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所はどこか？</li> </ul> <p><b>帰宅ができなくなる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅が困難になるのでは？</li> <li>・帰宅ができない</li> </ul> <p><b>インフラが麻痺する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラの崩壊が不安</li> <li>・交通機関が止まった時の帰宅方法</li> <li>・首都直下なので行政が麻痺するのでは？</li> </ul> <p><b>水・食料・生活用品の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料・水が世の中から無くなってしまう</li> <li>・食料確保、水確保、トイレ確保（トイレトーパーを含む）</li> <li>・生活用品の確保</li> </ul> <p><b>情報収集</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報をどのように取ることができるのか</li> </ul> <p><b>女性家庭・シニアは重い物が運べない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の力がないと重い物を運べない</li> </ul>

**テーマ3：自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを話し合おう****【自助】****健康保険や薬手帳を常備し、自分で薬等の管理をできるようにする**

- ・自助、自分は薬を飲んでいるので薬の管理が長期間できるか？  
→普段使用している薬は代替できない！

**自分でも防災グッズを用意する**

- ・1人1人が何か防災グッズを持った方が良い  
→被災地では食料の奪い合いなどトラブルが起こっているらしい。

**【自助・共助】****危なくない電気の普及、発電機の設置**

- ・危なくない電気の普及  
→ローソクは危ない
- ・小さなコミュニティでの発電機設置

**【共助】****小さなコミュニティでの対策強化**

- ・小さなコミュニティでの対策強化
- ・小さなコミュニティでの発電機設置

**【共助・公助】****自治会や学校でもっと実践的な訓練をする**

- ・自治会や学校でもっと実践的な訓練！

**【公助】****市の防災対策をもっと周知**

- ・市で取り組んでいる防災対策をもっと発信できるツール、多様化

**消防車の通行の確保**

- ・消防車の通行の確保
- ・東名高速道路の倒壊の心配

**第1は自助、第2は共助と公助**

- ・第1は当然自助、第2は共助と公助であり、日ごろの連絡を密にする

#### 4グループ（太字はまとめ、細字は個別意見）

#### 防災対策の課題をみんなで共有しよう！

#### テーマ1：あなたが取り組んでいる 防災対策を出し合おう

##### 備蓄品を確認する

- ・乾パン備蓄×15
- ・備蓄に対してはほぼ完全（自宅+マンション組合）
- ・消火器買うかな？
- ・備蓄品を消費期限がきたら交換

##### 自治会で防災訓練をする

- ・自治会で防災訓練！

##### これを機に始める

- ・何もしていません。これを機に…。

#### テーマ2：大きな地震の時の心配ごと を話し合おう

##### 発生時に心配なこと（倒壊、閉じ込められること、乳幼児や障がい者の避難方法や場所）

- ・部屋の中での倒壊→閉じ込められる
- ・子ども（1歳）がいるので避難所が心配
- ・障がい者の方が避難できるか心配

##### 発生後に心配なこと（交通や帰宅、津波、犯罪、病院の混雑など）

- ・災害で交通手段が止まる。
- ・帰宅困難になったらどこに泊まればいい？
- ・近所に川があるので津波の影響が心配
- ・災害を利用した犯罪
- ・ケガをしたら病院が混みそう

##### 避難中に心配なこと（お風呂やトイレ、メンタル、ゴミ処理）

- ・お風呂やトイレ
- ・長期間耐え抜いていくメンタルケア
- ・ゴミ処理

**テーマ3：自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを話し合おう****【自助】****備蓄点検や家具の固定をする**

- ・定期的に備蓄品の点検
- ・柱に家具を固定する、ガラスにフィルムを貼り、飛散防止

**情報収集をする**

- ・自分自身が積極的に情報収集をする

**【共助】****地域で防災意識の高いコミュニティを形成**

- ・地域間でもっと交流して防災意識を高める

**外国人への対応を想定して準備する**

- ・外人とのコミュニケーション、簡単な会話集、想定問答集の準備
- ・外国の人が多い地域の方達への伝達は充分にして欲しい

**【公助】****防災用品の購入に補助を出してもらおう**

- ・公助として、防災用品の購入に補助を出す

**建物強化、避難路の強化をする**

- ・古い建物を壊れないように強化しておく
- ・避難路の整備を考える（道路が悪すぎる）

**円滑な対応ができるように緊急時のマニュアルを準備する**

- ・公助として、災害時に現場任せにならないように普段からマニュアルを整備し共通認識を作っておく

**市の取り組みの発信**

- ・情報発信が行き渡るような方法が欲しい（高齢者向け）
- ・大和市が行っているイベントを目立つように発信して欲しい（チラシを至る所に貼る）

**有名人からメッセージをもらう**

- ・有名人（芸能人など）に依頼して、避難場所で励ましのメッセージを言ってもらおう

**厚木基地に応援を依頼する**

- ・災害時は厚木基地に応援を依頼する

**要支援者への対応**

- ・援助が必要というサインを発信する
- ・生活弱者の方も自分から声をあげる
- ・生活弱者の方に積極的に声をかける様に地域間で心がける
- ・体に障がいを持っている人をすぐに助けに行けるように、障がいを持っている人のリストをつくってGPSを服などに付けて歩く
- ・高齢者、障がい者が避難生活を安心して送れる場所の確保

## 5グループ（太字はまとめ、細字は個別意見）

### 防災対策の課題をみんなで共有しよう！

#### テーマ1：あなたが取り組んでいる 防災対策を出し合おう

##### 家族で日ごろから災害時の対策を話し合っている

- ・災害時の対応を家族で話し合っている（年に2～3回）
- ・家族で地震が起きた時のことを話し合う
- ・日ごろ話し合いをしていないので、今後したいと思う

##### 避難用の持ち出し袋（バッグ）を用意している

- ・避難用のバッグを用意してある

##### 家具の転倒防止策をしている

- ・大きな家具をつなぎとめている  
→寝室が怖い
- ・家具を倒れないようにする

##### 食料の備蓄をしている

- ・食料の備蓄

##### 災害時の救急車両へのエネルギー供給の仕組みがつくられている（座間市）

- ・座間市は警察車両に座間日産と提携してガソリンを供給している（新聞抜粋）

##### 市の防災訓練に参加している

- ・市主催の大規模消防訓練に一度参加して実体験してみる

##### 今日の話し合いに参加したこと自体が対策になっている

- ・今日の話し自体が防災対策

#### テーマ2：大きな地震の時の心配ごとを話し合おう

##### 地震による建物の倒壊や延焼火災

- ・家が崩れる
- ・大和市は人口密度が高いのでなだれ火災が心配です
- ・建物の倒壊
- ・特に大和駅前商店街は、建物の倒壊や火災が心配

##### 発災時の安否の連絡

- ・離れている息子の安否や姉家族と連絡がとれるか？

##### 災害時に家族が助ける側なので心配

- ・父の仕事が心配（介護）

##### 日用品が買えなくなる

- ・店から食料品や日用品がなくなる  
→大都市が機能不全→その後の生活不安

##### 寝室で家具転倒の被害にあう

- ・寝ている間につぶされる

##### 不在中に地震が起こったときのペットの安全確保

- ・家にいるペットの安全

### テーマ3：自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを話し合おう

#### 【自助】

##### 情報を集められるツールを複数用意する

- ・情報を集められるツールを複数用意する

##### 防災備品を災害時に使えるように日ごろから慣れておく

- ・3日分の備え、個人、自治会（自主防災会）
- ・自宅で行っている災害対策を定期的に見直す

##### 家族間で災害時の連絡方法を確認しておく

- ・緊急時に家族内だけでもどのように連絡をとるのか、待ち合わせるのかを話し合って決める
- ・LINEの既読機能！

##### 自治会の活動へ参加するなど地域とのつながりをつくる

- ・自治会活動（自主防災会活動）、地域の繋がり
- ・大和市には約150自治会ある
- ・自治会等に入って繋がりを作る

##### 中高生など若者が自治会に関われる機会を増やす

- ・若者が自治会に対して関わりが少ないから、もっと増やそう
- ・お祭りの機会などに、中学生や高校生とのつながりをつくる

##### 日ごろから助け合える関係づくりをしておく

- ・町内会でグループ（まとまり）を作って日頃からコミュニティを持ち、互いに助け合える環境を作る  
→お話しクラブをやっており、日頃から集まる機会をつくっている

##### 日ごろから高齢者の安否確認をしておく

- ・お年寄りの安否確認
- ・高校生が高齢者の見守り活動をしている

#### 【公助】

##### 防災無線をもっと増やし、地域に情報を届くようにする

- ・放送機具の拡大・増加

##### ラジオ、メールなど個人へ情報を伝えることができるツールをもっと普及させる

- ・緊急時に使えるラジオなどを各家に1つずつ配布する。（緊急時の連絡）
- ・情報を得る為のツール（PCメール、防災無線、ラジオ）  
→知らない人も！

##### 災害時に効果的に協力できるように市民と市の担当が「顔」の見える関係をつくる

- ・市役所の各地域担当者は誰か、運営委員会とか、避難場所とか
- ・市役所の担当の「顔」が見えないと災害時に協力できない



## 6 グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)

### 防災対策の課題をみんなで共有しよう！

#### テーマ1：あなたが取り組んでいる 防災対策を出し合おう

##### 【自宅で取り組むこと】

##### 必要なものをすぐそばに置いておく

- ・常に自分のバッグに必要なものを入れておく（メガネ、コンパス、ライト、食料など）
- ・寝る時は、メガネはケースに入れ枕元に。予備のメガネも用意する
- ・足を保護するスリッパを足元に常備

##### 食料の備蓄

- ・食料を常にとめておく
- ・非常食を備蓄する
- ・食料、水、カセットコンロ用ボンベを備蓄しておく
- ・カセットボンベを準備する

##### 食器など割れやすいものを落下防止

- ・食器は落ちてこないように高い棚にはしまわないようにする
- ・なるべく部屋に割れやすいものを置くのを避ける

##### 家具転倒防止・置き場所

- ・転倒防止のため家具の固定
- ・家具対策
- ・万が一家具が転倒しても下敷きにならない位置にベッドを置く

##### トイレ対策

- ・トイレ対策

##### 避難場所

- ・家が壊れたときにどこで家族に会うか決めた
- ・避難場所を家族であらかじめ決めておく

#### テーマ2：大きな地震の時の心配ごと を話し合おう

##### 避難路通れない

- ・避難路の確保ができるか

##### 備蓄食料が出せるか

- ・備蓄した食料などを持ち出せるか。重いので、緊急持ち出しするには限界がある

##### 通電火災

- ・通電火災（ブレーカーをあげたまま避難し、通電したときに火災が起きるといわれている。一定以上の揺れがあると自動的にブレーカーが降りる器具があるので、そうしたものを全戸配布するなど市で検討してはどうか）
- ・いつ日常に戻れるのか

##### 家族の安否

- ・家族のいる場所が分からず離ればなれにならないか
- ・家族の安否
- ・家族バラバラにならないか
- ・海岸の近くにいたとき、もしも急に地震がきて津波が出てきたら対応できるか？

##### 避難所の受け入れ体制

- ・動けない高齢者の避難の援助方法は
- ・高齢者などの健康。医療が受けられるのか
- ・母は姉の方に行ってしまうので、私も無事に帰れるか
- ・避難した人を受け入れる施設の設備ができていますか
- ・車中泊がいつまで続けられるか

##### 救護

- ・近くのケガをしている人を助けてあげられるか
- ・マンション内のケガ人の救出



**テーマ3：自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを話し合おう****【自助】****避難経路のチェック**

- ・ 避難経路や避難場所の確認や確保

**使い方を知る**

- ・ 消火機器の使い方などを知る(毎年やらないと忘れる)

**【共助】****ケースごとの防災訓練**

- ・ 時間帯、曜日、天候など、ケースごとの防災訓練
- ・ 自治会など地域での避難訓練の取り組み

**実際にやってみる体験が大事**

- ・ 自治会が協力して防災対策をする

**【共助・公助】****ペットの避難方法は？**

- ・ ペット等の避難先の確保は？
- ・ ペットなど避難所は受け入れてくれるのか

**【公助】****避難所の場所や経路**

- ・ 情報の伝達の仕方

**火災対策できるグッズの普及**

- ・ 火災対策として簡易の安全ブレーカーを取付け推進。(公的に)

**ペットの避難方法は(公助として)**

- ・ 車中泊に対する体制整備。(駐車場の確保など)

**どうやって救助される？優先順位は？**

- ・ 自衛隊がどこに来るのか

## 7グループ（太字はまとめ、細字は個別意見）

### 防災対策の課題をみんなで共有しよう！

#### テーマ1：あなたが取り組んでいる 防災対策を出し合おう

##### 非常時の持ち出し品

- ・ 発電型のラジオやライトを準備しています
- ・ 自己発電のラジオの常備
- ・ 発電式のライトを冷蔵庫にはりつけている
- ・ 非常持ち出し袋を用意している

##### 飲料水や食料品

- ・ 飲料水や食料品を備蓄しています
- ・ 飲料水の確保
- ・ 飲料水をポリタンクに貯めている
- ・ お茶と乾パン
- ・ マンションでは地下水利用している（水道水も使えるようにした）

##### 安否確認のしくみ

- ・ 近所の方の安否確認のしくみがあります
- ・ 災害の時は近所の年配の方の家に安全確認をします（自治会として仕組みがある）
- ・ 「とうちゃんの会」という仕組みがあります（父親がリーダーをしています）

##### 避難経路の確認

- ・ 避難経路を日頃から確認しています（工事などで変わっているとけないので、月一でやっている）

#### テーマ2：大きな地震の時の心配ごとを話し合おう

##### 情報確保

- ・ 情報が得られるか心配です
- ・ 避難情報の伝達
- ・ 道路の情報
- ・ 救急車は来られるのか
- ・ 細かい情報はどう得られるか
- ・ 防災放送は聞こえづらい

##### 自分の行動、安否確認

- ・ 自分の行動や安否確認が心配です
- ・ 地震の際に自分がどのように行動をとれるか
- ・ 他の人がいればよいが一人きりだと心配
- ・ 家族の安否確認
- ・ 自分の担当以外の高齢者の安否確認（見守りのボランティアがまだ少ない）

##### ライフライン

- ・ 道路が通れなくなる、ライフラインの対策が心配です
- ・ 停電、断水時の対策
- ・ 建物の倒壊による避難経路の確保の難しさ（3ルートを想定しているがすべてダメになる場合はないか）

##### 避難所

- ・ 避難場所がどこか、すぐに入れるか心配です
- ・ 避難所が変わったという張り紙があったが詳しいことがわからない
- ・ 避難場所にフェンスがあってカギを誰が管理しているか知らない
- ・ 避難所での生活が長引くのではないか心配です
- ・ 避難所にいる期間が長くなるかもしれない

### テーマ3：自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを話し合おう

#### 自助と共助の優先順位は？

- ・家族の安否確認が先か、高校生として「炊き出し」等の手伝い、避難の呼びかけを優先させるか悩む

#### 【自助】

#### 一人である時、家族の安全を確認できるように集合場所などを相談しておく

- ・家に一人で居るとき、ちゃんと避難できるように
- ・家族、知人との連絡方法（旧式の携帯電話（ガラケー）が良いとのことでした）
- ・行動や集合場所を約束しておく
- ・外出先からの帰宅方法はどうしたら良いか

#### 【公助】

#### いろいろな業種、業者との事前の協定づくり

- ・避難の長期化のため、被災者の日常生活支援が必要となること
- ・業界団体（県下に17の業界団体で、10万の事業所がある）これらと協定をつくっておく
- ・風呂、食事、睡眠など・・・各業種が協力してくれれば、生活の基本的なところを支援してもらえる

#### 行政からの事前の情報提供

- ・行政からの事前の情報提供が必要
- ・行政が（事前の）呼びかけをする
- ・飲料水はどのくらいの期間保管しておけるか、といった正しい知識がほしい

#### 耐震化への支援

- ・建物の損害について市からの補償はあるのか、どんな対策があるのか
- ・耐震対策をしたくても、400万円から500万円かかるといわれ、とてもお金を出せない。どうしたら良いか

#### 発災後の情報提供

- ・どこで宿泊できるか情報提供をする（SNS等の利用）

#### 障がいのある人も、誰もが避難できる

- ・避難所で避難生活が送れない人達への援助方法を明確にしてほしい
- ・障がいのある人への対応、サポート

## 8グループ（太字はまとめ、細字は個別意見）

### 防災対策の課題をみんなで共有しよう！

#### テーマ1：あなたが取り組んでいる 防災対策を出し合おう

##### 【事前の備え】

##### 自宅の耐震化

- ・ 築40年の自宅を、10年かけて耐震化した
- 市に耐震化の補助制度がある。昭和56年以前の基準で建てられたものなどの条件あり
- ・ 家具をできるだけ部屋に置かない
- 65歳以上の世帯の場合、家具備え付けなどに対する市の補助がある
- ・ 窓ガラス飛散防止フィルムをはる

##### 自宅での備蓄

- ・ オール電化にしたので、停電時に備え、石油を多め（60L）に、水は60本保存している
- ・ 庭に大きめの倉庫を設置し、家族分の衣類を常備している
- ・ 薬も多めに備えている

##### シミュレーション

- ・ 緊急時に家族と出会えるよう、「待ち合わせ場所」はどこにするかを話し合っている
- ・ 避難所、避難経路を確認しておく

##### 【情報収集対策】

- ・ 小型ラジオで情報収集
- ・ 台風の時は天気予報に気をつける
- ・ 大和市の「防災メール」に登録した

##### 【地震が来た時の行動】

- ・ 地震が起きたら、窓や入り口のドアを開ける
- ・ 災害が起きた時に具体的にどのように対応するのか、ガス栓を止めるなどを確認している

#### テーマ2：大きな地震の時の心配ごと を話し合おう

##### 家屋倒壊

- ・ 家が倒壊して下敷きになったら、逃げられない
- ・ 自宅が壊れたら、どの程度保障してもらえるのか
- 大災害の補償金は国が決める。地震が起きてから、補助金の割合などが決まるようになっている
- ・ 家が破損した時、修理や費用に関して、どこに連絡すれば良いのか

##### 災害

- ・ 火事が広がること
- ・ 火事が心配
- ・ 津波が起こること

##### 帰宅困難

- ・ 外出している時、無事に帰宅できるか

##### 安否確認

- ・ 家族との連絡がとれるか心配。ラインは既読になるので安心感がある。家族でスマホへの切り替えを進めている
- ・ 電話が繋がらなくなる。親戚、友人の安否が心配
- ・ 近所に老人がたくさん住んでいる。おいて逃げられないが、どこまで安否確認するべきか

##### 避難が続く時

- ・ ペットがいる場合、避難場所はどうすればいいか
- ・ 服用している薬は多めに用意しているが、なくなるのが心配

**テーマ3：自助・共助・公助の課題や大切なキーワードを話し合おう****【自助】 safe yourself****備蓄**

- ・フエ、ライト、食料や水など、備蓄しておく

**身を守る**

- ・自分の身は自分で守る
- ・ケガしないためには、家具転倒防止などしておく

**帰宅困難時をシミュレーション**

- ・自宅から遠いところにいる時の、徒歩による帰宅方法を考えておく
- ・震災時、電車が開通するまでは、線路の上を歩けるようにする

**【共助】****安否確認方法を検討**

- ・子どもが学校にいる時、高齢者が一人である時なども含めて、家族と学校、近所の人々の連絡方法を考える
- ・近所の人同士で、日頃からコミュニケーションをとる
- ・安否確認の方法を家族と共有しておく

**【公助】****備蓄**

- ・災害時用の公衆トイレ、水などは十分備えてもらいたい。特にトイレ。3.11の時、帰宅困難者として遠方から歩いたが、食事はあまり欲しくなかったけれど、トイレは必要だった
- ・駅で、毛布やヘルメットを十分備えてもらいたい

**帰宅困難者対策**

- ・レンタサイクルを活用できないか。広域に乗れるシステムにして、普段はレンタサイクル、災害時には帰宅困難者が活用できるもの

**充電**

- ・電話や、レンタサイクル（電動式）を充電する設備が必要

**ペットの避難**

- ・ペットの避難について、検討しておいてもらいたい

## (4) 午後の意見交換 | ワークショップ

### ●進め方

- ・大和市の防災力を向上させるためのキーワードと理想の姿をテーマに、具体的な問題を洗い出し、将来に向けた解決イメージを出し合いました。
- ・4～5人で1つのテーマについて意見交換をしました。
- ・整理した課題について、グループ内で投票を行い、重要度を確認しました。
- ・最後に、課題に対する解決策を短冊に書いてグループごとに発表し、最も大切だと思ったものについて投票を行いました。

グループ①②：「楽しい防災訓練をつくろう」

グループ③④：「楽しく防災力を高める ～〇〇×防災～」

グループ⑤⑥：「ベッドタウンの防災 ～大切な人やペットを守る～」

グループ⑦⑧：「地域コミュニティで防災力を高める」

### 午後の進め方 (13:30~16:05)

4~5 人のグループでそれぞれ1つのテーマについて意見交換します

#### 1) 8つのテーブルに分かれて座ります

お示したグループにご着席ください。

#### 2) 午前中の議論を振り返ろう

進行役から午前中の議論をまとめて共有します。

#### 3) 30秒自己紹介

プロフィールシート、テーマについて紹介します。

#### 4) テーマの確認

テーマに関する補足や、午前中の議論の中で出たテーマに関する意見を振り返ります。

#### 5) テーマに関する課題を整理しよう

テーマに関して問題だと思ふことを一人3~4枚付箋に書き出し、グループの中で同じような意見があれば集約するなど、課題の整理をします。

#### 6) 重要な課題から解決アイデアを出し合おう

整理された課題はシール投票で重要度を確認し、重要度の高いものから、将来に向けた解決イメージを出し合ひましょう。

#### 7) アイディアをまとめて発表しよう

解決アイデアの中でシートにとりまとめ、発表者を決めて全体でアイデアを共有します。

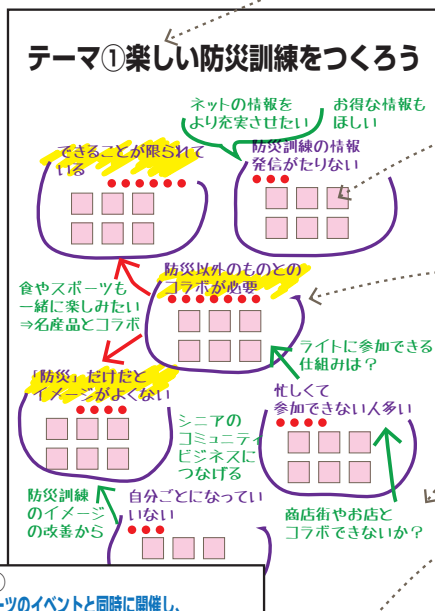
#### 8) 会場全体で出てきたアイデアにシール投票

他のグループのアイデアを含めて、大切だと思うアイデアにシール投票をします。

#### 9) まとめ

本日の議論の成果を確認します。

後半議論の模造紙のイメージ



テーマ④  
食やスポーツのイベントと同時に開催し、これまで参加していない人も楽しめる防災訓練にする

テーマ④  
防災訓練のイメージを改善するため、子ども向けのキャラクターやアイドルとのコラボを進める

テーマ④  
商店街や企業とコラボして、日常的に防災意識を高めたり、訓練ができるライトな訓練を立案する  
散歩しながら避難経路を確認するなど

テーマ④  
防災訓練に参加して欲しい層に対して、ターゲットを明確にしたうえで、必要な情報提供をする  
お得な情報もあわせて追加する

後半議論のまとめシート



### ●流れとまとめ

4つのテーマに分かれて、各グループで話し合っていたきました。その後、最も共感できるアイデアについて参加者全員で投票を行いました。

### 表の見方

グループ番号

課題

解決アイデア

※太枠はグループごとに最も投票数が多かったアイデアです。

## テーマ① 楽しい防災訓練をつくろう

1グループ	食の要素を防災訓練に	非常時に食べる「食」に面白味を入れ、「炊き出しグランプリ」を訓練のメインイベントにしよう	2グループ	休日にわざわざ防災訓練に行かない	休日でも参加しなくなる防災訓練にするために、イベントを前面に出し、今まで行ったことのない方法で開催（夜に行うなど）、食とグッズで集客を図り、キャッチーなタイトルで周知しよう
	訓練で様々な体験をしたい	ホース体験、炊き出し、妊婦さん・老人・子ども救助疑似体験、担架運搬、注目度アップのレンジャー訓練ショーを実施したい		そもそも防災訓練を行っていることを知らない	防災訓練の存在を効果的に伝え、受けとるために、広告の写真などインパクトをもたせたり、有名人招致や、新ポストを設定し（防災所長など）、発信力を強化しよう
	今の訓練をさらに良くする視点も必要	みんなでかわいい服を着て避難路チェック、ウォークラリー形式やナイトウォークでも実施したい		お役所感がすぎる	お役所感を払拭し、防災訓練に参加してもらうために、ドレスコードを決めて写真を撮り統一感を出そう（防災=〇〇色、〇〇の音など）
	広報が届いていない	訓練の注目度が低いので、芸能人とタイアップして知名度を上げる		誘いにくく、誘うものでもない	友人を誘いやすい、誘いたくなる防災訓練にするために、楽しい防災訓練で何をしていたかを知ろう
	若い人に参加してもらいたい	合コン形式とし、引きこもり対策や若い人が集まる機会を兼ね、炊き出しや訓練イベントで出会うと有事の際に安心感が持てる			

## テーマ② 楽しく防災力を高める ～〇〇×防災～

3グループ	防災に関わる職業を体験し、実際の防災を学ぶことで、実際に役に立つ機会をつくるのが大切	「ポンプ車」「ハシゴ車」「自衛隊のトラック」など防災に関わる乗り物に乗ることで、自然と防災意識を高めたい 「マーチングバンド」「災害時の医療部隊」など、かっこいい職業を見る・体験・参加することで防災意識を高めたい	4グループ	日常生活の楽しみ、カフェのように楽しみ、防災を感じられる	子育て中の親子をターゲットにカフェ形式のワークショップを開催し、防災グッズを手芸で作成し持ち帰る機会をつくろう
	防災のことを考えなくても自分は何とかなると思ってしまう	防災は重要だけど、「何とかなる」と思ってしまうなら、備蓄は「災害用」と意識せず、好きなものを買って換えていく習慣をまずつけよう		見栄えやしつらえ、デザインが大切	
	小学校などで被災すると、小さい子はパニックになってしまう	子どもは親が防災のことをなんとかしてくれると思ってしまふものなので、「子どもでもできる簡単防災マニュアル」をつくろう		忙しくて時間がつかれない	スポーツ観戦の試合開始前の空き時間に選手やマスコットと触れ合いながら防災体験を実施しよう
				防災はとっつきにくい	避難訓練のなかで防災トリアスロンを実施し、避難訓練を競技化しよう
				アウトドアとの関係が強いのでシミュレーションしたい	
				防災用品の準備が日常のなかに入っていない	日常のおしゃべり井戸端会議を活用して防災情報の共有や意識啓発につなげよう
				情報がしっかり行き届くようにすることが大切	



**テーマ③ ベッドタウンの防災～大切な人やペットを守る～**

5グループ	情報通信機器（PC、携帯）が繋がらない時の安否確認方法が必要である <b>通信が途絶えた時に、ドローンを活用して情報伝達しよう</b>	6グループ	安否確保を近所するために、周囲にも関心を持つことが大切 <b>要介護・要支援者への援助を若者を中心として組織化し、日ごろから活動していく志でバックアップしよう</b>
	災害時の行動力や情報収集力を身につけることが大切 情報通信機器（PC、携帯）が使えない方でも、安否情報が確認できる方法があるとよい インターネットを活用した災害時の情報収集方法や対応策をもっと気軽に、もっと基礎からわかりやすく学べる機会を増やそう		帰宅困難時に備えて、空き家の活用ができるように市が交渉し、協定などを結ぼう カラオケやまんが喫茶などの宿泊施設などを利用して帰宅困難時の混乱を避けよう
	災害時の避難先で人とペット（動物）が共存するための方法は？ <b>日ごろからペットが避難した時のことに備えて、ペットのマナー訓練をしておこう</b>		帰宅困難時の混乱が心配

**テーマ④ 地域コミュニティで防災力を高める**

7グループ	自治会同士の連携 自治会の楽しそうなイベントの様子を twitter で発信し、まずは活動に参加してもらおうきっかけをつくろう	8グループ	日常的な場が必要 日常的に顔見知りになる活動として、お茶、おしゃべり、待機児童を対象とした預かり保育を実施して居場所づくりをしよう
	あいさつや会話ができる関係づくりのために、どのように仲良くなるかが課題 学園祭のように準備段階から参加できることで（自分達でつくったものを自分達で売り出す、お勉強っぽくない）自分達で楽しいイベントをつくってほしい		ご近所で挨拶しない習慣が課題 日常的に顔見知りになる活動として、そうじ、花壇の手入れ、挨拶運動を実施しよう
	活動に参加してくれる人に負担感少なく参加してもらおう 一度地元の訓練などに参加すると次が断りにくくなるため、気楽に参加できるように、事前にスケジュール等を伝え、自分の生活リズムにあわせて参加できるようにしよう		「月 1 回の防災の日」などの定期的な取り組みが大切 月 1 回の防災の日で顔見知りになるための若者も集まる楽しい音楽イベントを実施しよう
	自助から共助の仕組みへ変えていきたい <b>地域の高齢者の情報がわかるように、市は福祉部門とも連携して自治会に情報を出して欲しい</b>		要介護支援者の把握 <b>年 1 回の防災の日にて地区対抗のスポーツ大会「ヤマリンピック」を実施しよう</b>



## ●詳細結果

### ■グループ1

#### 楽しい防災訓練をつくろう

##### ●議論の流れ

- ・ 楽しい防災訓練にするためには、どのように作るとよいかについて話し合いを行った。行きたくなるような防災訓練には魅力が必要であると考え、多くの人に興味を持ってもらえる可能性がある「食べ物」、若者の興味を引く「出会い」「芸能人」・高齢者の興味を引く「体操」「歌」「グラウンドゴルフ」などのアイデアが出された。
- ・ また、現在の訓練の良いところや足りないところについても意見が上がった。さらに、妊婦や子育て中の人向けの防災対策についての情報についてもアイデアが出された。
- ・ 「食べ物」では、炊き出しをメインにレシピの公募やグランプリを行う参加型イベントやおいしい防災食の開発など広く意見が出された。
- ・ 「出会い」では、「食」の魅力に対して「人」の魅力でという視点からアイデアが出された。特に若い人は、地域に友達がまだ多くないことから、これらの人同士をつなげるために出会いがあるとよいという意見から話が広がった。また、出会うことによって引きこもっている人も出てきてくれるのではないかと意見も出された。
- ・ 「出会い」と同じ流れで「芸能人」のアイデアが提案された。好きな芸能人が防災訓練に来てくれれば、今はやる気のない姿勢でやっている若い人（学生）も一生懸命防災訓練をするようになり、結果として楽しい訓練になるので

はないかとの意見が出された。また芸能人を呼ぶことでイベント自体が多くの人々の注目を集め、集客にもつながるのではないかという意見も出された。

- ・ 高齢者はそもそも外出を嫌う傾向があることから、なかなか参加が見込めない。そこで、高齢者の興味を引く「体操」のついでにまずは炊き出しの試食などをやってみてはどうかとのアイデアが出された。このアイデアに乗る形で、「グラウンドゴルフ」「歌」などの意見も出された。方向としては、防災訓練がメインではなく、お楽しみに訓練がついてくる形であった。
- ・ また、震災の時に大変な妊婦や障がい者に情報提供が必要なのではないかとアイデアが出された。これらを学ぶため、「防災大学」のような学ぶ場所を設けてはどうかとの意見に発展した。一方、講義はお笑いや参加型の要素を取り入れたできるだけ参加者の興味を引くつくりにしたほうが良いとの意見もあった。
- ・ ハロウィンの時に渋谷に集まる若者たちをヒントにコスプレ的に衣装を着て避難路を点検するアイデアが出された。このアイデアを広げて、ウォークラリー形式やスタンプラリー形式にしてはどうかとの街歩きの要素も含めた意見が出された。
- ・ 最後に発表前に「楽しい！」を強調するため「エンジョイ くんれん」というキャッチフレーズが考えられた。

課題（論点・個別意見） （◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）	解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
<p><b>1</b></p> <p><b>食の要素を防災訓練に（◎2人○2人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出しで何を用意したらよいか知らない</li> <li>・炊き出しがおいしいと思わない（イメージが悪い）</li> <li>・災害時の食べ物は身近じゃない（普段は食べない）</li> <li>・非常食のイメージが悪い</li> </ul>	<p><b>非常時に食べる「食」に面白味を入れ、「炊き出しグランプリ」を訓練のメインイベントにしよう</b> （シール投票数：13票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出しが食べられるイベント（震災の時どんなものがあるとよいか分かる）</li> <li>・おいしいたきだしGP（グランプリ）</li> <li>・かんぱんをおいしくしよう（震災の時においしくない物を食べるためから）</li> <li>・公園で歌を歌いながら非常食の試食（炊き出しのレシピの歌を芸能人に作ってもらう）</li> </ul>
<p><b>2</b></p> <p><b>訓練で様々な体験をしたい（◎2人○2人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の疑似体験がなかなかできない</li> <li>・親子で参加しにくい（親子参加したい）</li> <li>・夜に災害が起きたらどうするか？</li> <li>・妊婦さんのための対策は？</li> <li>・知識を増やす</li> <li>・震災後に起きる危険についても学びたい</li> <li>・参加型の講演が良い</li> <li>・お笑いな要素を入れる（バカリズムのような）</li> </ul>	<p><b>ホース体験、炊き出し、妊婦さん・老人・子ども救助疑似体験、担架運搬、注目度アップのレンジャー訓練ショーを実施したい</b> （シール投票数：3票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出し、担架運び、ホース体験。子どもや高齢者のお世話の疑似体験など</li> <li>・親子バケツリレー、消防車・救急車の運転席に乗れる。消防隊員の訓練親子見学</li> <li>・ナイトウォーク</li> <li>・子どもが喜ぶコンテンツを設けては？</li> </ul> <p>→災害用粉ミルク →妊婦が自分の身を守るためのマニュアル・レクチャー ・地震大学をつくっては？（防災大学）</p>
<p><b>3</b></p> <p><b>今の訓練をさらに良くする視点も必要（○2人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家からの避難訓練はない</li> <li>・避難路を知らない</li> <li>・電気の確保について知りたい</li> </ul>	<p><b>みんなでかわいい服を着て避難路チェック、ウォークラリー形式やナイトウォークでも実施したい</b> （シール投票数：1票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いざという時のための家の中からの訓練をする</li> <li>・みんなでかわいい服を着てゴミ拾い（避難路を覚えるため）</li> <li>・発電自転車イベントなどでどのくらい発電できたか！</li> </ul>
<p><b>4</b></p> <p><b>広報が届いていない（○1人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注目度が低い</li> <li>・ヤマトンが活かされていない</li> <li>・市の情報がSNSの広告などには入っていない</li> </ul>	<p><b>訓練の注目度が低いので、芸能人とタイアップして知名度を上げる（シール投票数：5票）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマトンに防災頭巾をかぶらせる</li> <li>・SNS広告で広まる広める→今の人が面白いと思う</li> </ul>
<p><b>5</b></p> <p><b>若い人に参加してもらいたい（○1人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人たちは地元で友達がいないので（防災訓練が）つまらない</li> </ul>	<p><b>合コン?!ではない合コン形式とし、引きこもり対策にもなる。若い人が集まる機会が少ないので炊き出しや訓練イベントで出会うと有事の際に安心感が持てる（シール投票数：1票）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ趣味などを持つ同士で取り組みを行う</li> <li>・炊き出しで合コンではないが情報交換をして意識を高める</li> </ul> <p>→（有事の時）見ず知らずの人より協力し合えるかも</p>





## ■グループ2

### 楽しい防災訓練をつくろう

#### ●議論の流れ

- ・ 楽しい防災訓練にするために、まず課題を出し合い、その課題に対する解決アイデアについて意見交換を行った。防災訓練が休日に行われていることから、休日に友人などを誘って行きたくなるような防災訓練という視点からのアイデアが多く出された。
- ・ そもそも防災訓練の存在を知らない、どのようなことをしているか知らない、という意見が多くあった。そのため、防災訓練のために参加するのではなく、防災訓練にイベント的な要素を多く組み入れ参加しやすくすることで、イベント目的でも、まず防災訓練の会場に足を運んでもらうきっかけをつくることが大切という意見が出された。アイデアとしては、災害は昼夜問わず発生するので夜間の開催や、人が集まりやすい食やグッズ販売などが挙げられた。
- ・ 防災訓練の周知については、回覧板や広報だと受け取っても、仕事や学校で忙しいと中身を全て見ないという意見があった。そのため、広告の写真に掲載したり、有名人の招致により、注目を集めやすい工夫をするアイデアが出された。また、新たに「防災所長」などのポストを設定するアイデアも出された。
- ・ 防災訓練の報告に使われる写真からは、「防災フェスタ」の盛り上がり伝わってこず、魅力的に見えないという意見があった。そのため、ドレスコードを決めて参加者を募ることで、その日のためにおしゃれができ、若い人には効果的だというアイデアが出された。さらに防災訓練の撮影写真に統一感が生まれ、見た人に楽しさがより伝わるという意見が出された。このように色の統一のほか、決まった音や音楽を流すことで、その色を見たり、その音を聞いたら「防災」とすぐ感覚的につながるのでよい、という意見も出された。
- ・ これらの取り組みを実施することで、友人を誘って行きたくなるような防災訓練になるという意見があった。

課題（論点・個別意見） （◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）	解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
<p>1</p> <p><b>休日にわざわざ防災訓練に行かない（◎4人○1人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他に楽しそうなイベントがある</li> <li>・イベントに参加したいという動機づくりが必要</li> <li>・休日にも行きたくない内容ならばよい</li> </ul>	<p><b>休日でも参加したくなる防災訓練にするために、イベントを前面に出し、今まで行ったことのない方法で開催したり（夜に行うなど）、食とグッズで集客を図り、キャッチーなタイトルで周知しよう</b> （シール投票数：7票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず足を運ぶきっかけをつくる</li> <li>・防災訓練という名前を変える</li> <li>・防災というより、祭りやイベントのように楽しいものにする</li> <li>・企業とコラボした防災グッズ体験販売</li> <li>・防災食の実演販売</li> <li>・夜の部でキャンプファイヤーをし、それを消火する</li> <li>・音楽を流し近隣にイベントの存在を知ってもらう</li> <li>・地区対抗で盛り上げ、景品付きにする（防災食やグッズ1年分など）</li> <li>・防災1：イベント9の割合で実施し、興味を持ってもらえるきっかけにする</li> <li>・有名人が1日所長をするなど、新たな「防災所長」をつくる</li> <li>・フラッシュモブを活用した防災訓練を行う</li> </ul>
<p>2</p> <p><b>そもそも防災訓練を行っていることを知らない（○3人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練の存在を知らなかった</li> <li>・そもそも知らなかった</li> <li>・いつ防災訓練があるのか知らない</li> <li>・行政の情報発信、住民の受信方法に課題がある？ →回覧板で周知されているが、回覧板を見ない →防災無線が聞こえない</li> <li>・開催していることも、そこでなにをしているのかもわからない</li> </ul>	<p><b>防災訓練の存在を効果的に伝え、受けとるために、広告の写真などインパクトをもたせたり、有名人招致や、新ポストを設定し（防災所長など）、発信力を強化しよう</b> （シール投票数：2票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広告の写真などでインパクトのあるものを掲載し興味を引く</li> <li>・QRコードを活用する</li> </ul>
<p>3</p> <p><b>お役所感がすぎている（○3人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントがお役所っぽい</li> <li>・写真1枚にしてもお役所感がでている</li> <li>・写真を見ても盛り上がり伝わってこない</li> </ul>	<p><b>お役所感を払拭し、防災訓練に参加してもらうために、ドレスコードを決めて写真を撮り統一感を出そう（防災＝○○色、○○の音など）</b> （シール投票数：2票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレスコードを決めて写真に統一感を出す</li> <li>・この日のためにおしゃれができる</li> </ul>
<p>4</p> <p><b>誘いにくく、誘うものでもない（○1人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で行きづらい</li> </ul>	<p><b>友人を誘いやすい、誘いたくなる防災訓練にするために、楽しい防災訓練で何をしてきたかを知ろう（1～3の取り組み後に）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3が取り組めると解決につながる</li> </ul>



5	<p>開催報告がない (意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催した際の成果物がない</li> <li>・何をしていたか知れば行く動機になる</li> </ul>	
6	<p>実感を得るために実際に体験し目で見 (意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルや旅館など避難先を実際に決めることが重要</li> <li>・芝居や映像で伝える</li> <li>・バーチャルリアリティーで災害体験をする</li> </ul>	

●作業シート

③ お役所感を払拭し、防災訓練に参加  
～ドキュメントを事前に  
録音し出す。(防災=00色) 色+音

② 防災訓練の内容を効果的に伝え受ける  
～広告の写真をイベントを主として  
有名人招き寄せ、新ポスト設定(防災所長)し、  
発言力を強化する～

① 地域参加に促す防災訓練に3つ  
～イベントを前面に出し、満足度を上げ、加えよう  
～今までの、この訓練(夜行) / 食+グッズ  
身軽になる / マッチライトに用いる～

④ 友人を誘いや、誘った防災訓練に  
～楽しい防災訓練は何をしたかを知る～  
(①～③ 取り組むの後に...)

楽しい防災訓練をつくろう!!

佐藤工、芦川、藤森、夜の高

日時設定はありか? 地域に  
土曜日 16時 加えよう 防災訓練  
イベントの  
準備は  
1週間前

① イベントの  
準備は  
1週間前

② 知らせる  
方法  
は  
どう  
する  
か?

③ お役所感を  
払拭  
す  
為  
に  
は  
?

④ 誘う  
の  
は  
ど  
う  
す  
る  
か?

何をして知る  
↓  
行く動機になる

有名人の10名  
新しい「防災所長」を3!

① 体験型  
の  
訓練  
に  
参加  
し  
て  
実  
感  
を  
得  
る

② 情報を伝える  
手段の  
見直し

③ お役所感の  
見直し

④ 全体に  
つながる  
こと

## ■グループ3

### 楽しく防災力を高める ～〇〇×防災～

#### ●議論の流れ

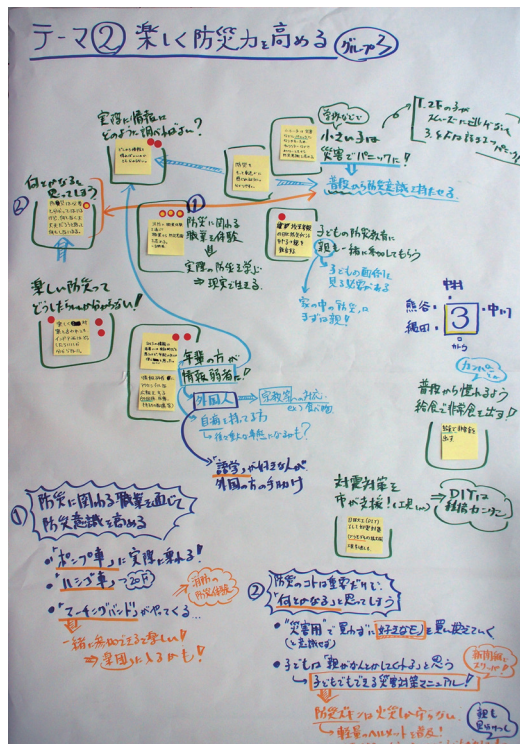
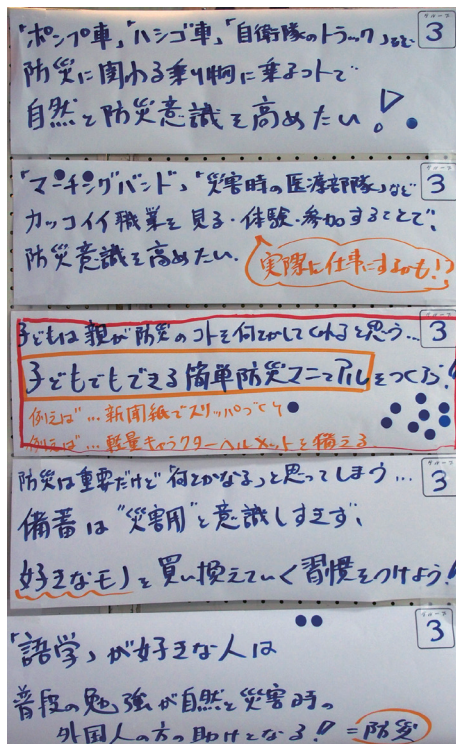
- ・ 「楽しく防災力を高める」とはということか、というところから議論を始める予定だったが、なかなか「楽しい」と「防災」を結びつける話に繋がらない様子であったため、過去の体験から結びつけるところから議論をスタートさせた。
- ・ 戦車や飛行機等、軍事系のものが好きだという参加者からは、防災に関わる様々な職業を実際に見る、体験することが防災の学びや実践につながるのではないかと、という意見が挙げられた。消防団や自衛隊等による本格的な防災訓練の見学や体験、「ポンプ車」「ハシゴ車」「戦車」といった乗り物に乗れるとよいという意見も述べていた。吹奏楽をやっている女性の参加者は、同様のイベント時にマーチングバンドの演奏や、実際にその演奏への参加の機会があるといいと述べていた。いずれも、興味にプラスした実体験が、防災に対する意識や、実際の職業に対する深い興味につながるという案であった。
- ・ 防災やその対策は重要であると思う反面、自分はなんとかなると思いき、何もしないという意見が多く出ていた。防災グッズを買い揃えたり、定期的買い換えたりすることが面倒くさいという気持ちも大きいようである。少しでもその状況を変える方法として、「災害用の備蓄」と意識せずに、好きなもの、食べたいものを常にかき換えていく（食べていく）習慣をつけるという意見が出された。またいざという時に防災食がまずくて食べられないのは問題なので、例えば小学校の給食で時々防災食をメニューとして出すなど、普段から防災食に慣れる状況づくりをしていってはどうかという案も出された。
- ・ 災害時は情報弱者に対するケアが重要であるという話が出た。東日本大震災の際は、twitterをはじめとした SNS が、電話の繋がらない相手とも連絡を取り合えるなど重宝したという意見が挙がっていた。特に高齢者等、インターネットを使えない人に対するケアがこれからは重要になっていくという意見が出された。また、外国人の方に対するケアも重要で、普段から外国語を学んでいる人たちの存在が、災害時には非常に重要になってくるという話になった。また外国人の方は宗教を信仰している場合が多数で、例えば特定の食べ物食べられないといった制約にどう対処するかカギになるという話が出た。
- ・ 興味深い意見として、専らインドア派であるという参加者からは、「楽しい防災」と言われると引いてしまうし、どうすれば良いかわからなくなるというものが挙げられた。アクティブな雰囲気苦手な方は多く、そういった方がそれでも楽しく防災について考えられる機会の提供も必要ということだった。
- ・ 全体的に「楽しい防災」というより「防災と自然に向き合う」にはどうしたらよいかという視点に立った意見が多く出されたグループとなった。



課題（論点・個別意見） （●グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）	解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
<p>1</p> <p>防災に関わる職業を体験し、実際の防災を学ぶことで、実際に役に立つ機会をつくるのが大切（●3人）</p> <p>（意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防の職業体験を通じて職業から防災意識を高める＋自衛隊</li> </ul>	<p>「ポンプ車」「ハシゴ車」「自衛隊のトラック」など防災に関わる乗り物に乗ることで、自然と防災意識を高めたい（シール投票数：1票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ポンプ車」「はしご車」に実際に乗れる（20階の高さ） →消防の防災体験</li> </ul> <p>「マーチングバンド」「災害時の医療部隊」など、カッコいい職業を見る・体験・参加することで防災意識を高めたい（シール投票数：2票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に仕事に就くことになるかも！</li> <li>・ 防災イベントに「マーチングバンド」がやってくるといい →一緒に参加できると楽しい！ →楽団に入るかも！</li> </ul>
<p>2</p> <p>防災のことを考えなくても自分は何とかなると思ってしまう（●1人）</p> <p>（意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災は必要と分かってはいるけど、何となく大丈夫だろうと思っ何もしないまま</li> </ul>	<p>防災は重要だけど、「何とかなる」と思ってしまうなら、備蓄は「災害用」と意識せず、好きなものを買って換えていく習慣をまずつけよう（シール投票数2票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「災害用」で（と意識せずに）買わず、好きな物を買って替えていく</li> <li>・ 普段から乾パンなどの非常食に慣れるよう、給食で非常食を出してみよう</li> </ul>
<p>3</p> <p>小学校などで被災すると、小さい子はパニックになってしまう</p> <p>（意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さい子は災害などにパニックになりやすいため、キャラクターなどで幼い時から防災意識を高める →1、2階の子がスムーズに逃げないでいると、3、4階の人たちが詰まってしまう、益々パニックに →普段から防災意識を持たせることが重要</li> </ul>	<p>子どもは親が防災のことをなんとかしてくれると思ってしまうものなので、「子どもでもできる簡単防災マニュアル」をつくらう（シール投票数：9票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもは「親がなんとかしてくれる」と思ってしまう →「子どもでもできる災害対策マニュアル」を制作する （例えば新聞紙でスリッパなど実例が掲載されているもの） →防災ずきんは火災しか守らない。軽量ヘルメットを普及させてはどうか（キャラクターの絵や、猫耳など子どもが好むものが付いていると使ってくれるし親も見分けがつく）</li> <li>・ 子どもの防災教育に親も一緒に参加してもらう</li> <li>・ 授業参観の日に防災イベントをやる →親を教育する →子どもの面倒を見る必要がある →家の中の防災はまずは親</li> </ul>

	<p>防災を意識する機会が少ないと、身近に感じられない。</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災をもっと身近に感じられるように、分かりやすく</li> </ul>	<p>「語学」が好きな人は、普段の勉強が自然と災害時の外国人の方の助け = 「防災」になる</p>
4	<p>実際に情報はどのように調べればよい? (〇2人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どこから情報を得ればいいのかさえ分からない</li> </ul>	
4	<p>情報弱者への対応が必要 (〇2票)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS の情報は若者には有効的だと思うけど、年配の方には使いにくいと思った</li> <li>→ ネット時代は年配の方が情報弱者になってしまう!</li> <li>・ 情報弱者にアクセシブルな広報をする。(外国語、医療、特別の配慮等)</li> <li>→ 外国人の方には特に宗教等への対応が重要 (ex.食べ物)</li> <li>→ 「語学」が好きな人が外国の方の手助け</li> </ul>	
5	<p>「楽しい防災」と言われると引いてしまう人もいる (〇3人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しく対策と言われても、インドア派はどうしたらいいか分からない</li> </ul>	
6		<p>個人の耐震対策を大和市が支援してくれるといい (工具の貸し出しなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日曜大工 (DIY) として耐震対策 (プラモデルの拡大版)、工具貸出しも</li> <li>・ DIY は結構簡単</li> </ul>

●作業シート



## ■グループ4

### 楽しく防災力を高める ～○○×防災～

#### ●議論の流れ

- ・ 防災をもっと身近に感じ、楽しく防災対策を考えるために必要なことは何か？ということから話し合いをスタートした。
- ・ 最も多く意見が出されたのは、「防災が日常生活の中に入っていない」ということであった。「防災」だけをテーマに何かを取り組むのではなく、いかに人々のライフスタイルの中に、自然に防災を考える機会を忍び込ませるかをキーワードとして意見交換が進んだ。
- ・ 具体の解決アイデアとしては、普段子育て中の方を対象として行っている「子育てサロン」のようなカフェ形式のサロンで、気軽に体験できる防災セミナーを同時に開催するというものが出された。その中で、手芸や工作の要素を取り入れ、プロが考案したおしゃれなデザイン

の防災グッズを手づくりでつくって持ち帰り、実際に使えるようにするといったアイデアも出された。

- ・ さらに、日常に溶けこませることの派生として、「クチコミ」を利用し、井戸端会議の中で防災情報が伝達できるような「ウワサプロジェクト」といったアイデアも出された。
- ・ 他にも、スキマの時間を活用したアイデアとして、スポーツ観戦の試合前の空き時間を利用し、選手やマスコットキャラクターと一緒に防災に関する意識を啓発する機会を設けることや、楽しく防災訓練ができるように、トライアスロン形式で防災訓練を行うなどのアイデアが出された。

課題（論点・個別意見） （◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）	解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
<p>1</p> <p><b>日常生活の楽しみ、カフェのように楽しみ、防災を感じられる（◎3人○1人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害は非日常なので、日常の中で考える「きっかけ」づくりの工夫が必要</li> <li>・ お茶、日常の立ち話、趣味の話→防災を自然な形で →非日常のきっかけづくり →共通のターゲットの集まりで、つながりも深まる</li> </ul> <p><b>見栄え、しつらえ、デザインが大切（○2人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しそうなイメージ、工夫のひとつとして見栄えが大事</li> </ul>	<p>子育て中の親子をターゲットにカフェ形式のワークショップを開催し、防災グッズを手芸で作成し持ち帰る機会をつくらう（シール投票数：8票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て×ものづくり×教育×カフェ形式×防災</li> <li>・ デザインの専門家とコラボレーションして、誰もが使いたくなる防災グッズを持ち帰れるようにする</li> <li>・ 犬カフェや猫カフェのように、ペットをテーマにした防災セミナーの実施も検討する</li> <li>・ 工作ワークショップ+児童、家族でアウトドアなどの多様なテーマが考えられる</li> </ul>
<p>2</p> <p><b>忙しくて時間がつれない</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災対策の時間が作れない →時間帯の工夫が大切</li> </ul>	<p>スポーツ観戦の試合開始前の空き時間に選手やマスコットと触れ合いながら防災体験を実施しよう（シール投票数：5票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ観戦×空き時間×スター選手×防災</li> <li>・ 市とスポーツチームが連携して実施できる体制をつくる</li> <li>・ 若者や家族層をターゲットにできる</li> </ul>

3	<p><b>防災はとっつきにくい</b>          (意見の付箋)          ・ 防災対策はとっつきにくい          →もっと分かりやすく (子どもでも分かる)</p> <p><b>アウトドアとの関係が強いのでシミュレーションしたい (〇1 人)</b>          (意見の付箋)          ・ アウトドア=避難生活</p>	<p><b>避難訓練のなかで防災トリアスロンを実施し、避難訓練を協議化しよう (シール投票数: 2 票)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリアスロン×運動不足解消×訓練×防災</li> <li>・ 順位をつけてゲーム性を重視させる</li> <li>・ しつらえやデザインにもこだわる</li> <li>・ スポーツ好きな人や 30 代前後をターゲットにする</li> </ul>
4	<p><b>防災用品の準備が日常のなかに入っていない</b>          (意見の付箋)          ・ 防災用品が特殊に感じられる          ・ +1 としなければならぬ気分          ・ 防災対策はめんどくさい          →ハードルを下げたい</p> <p><b>情報がしっかり行き届くようにすることが大切 (●1 人〇2 人)</b>          (意見の付箋)          ・ 情報が行き届いていない          ・ 何が正しいのか分かっていない          →発信しているが届かない、ギャップを埋める</p>	<p><b>日常のおしゃべり井戸端会議を活用して防災情報の共有や意識啓発につなげよう (シール投票数: 2 票)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おしゃべり×日常×防災</li> <li>・ クチコミを利用した防災情報の普及、防災の「ウワサプロジェクト」にする</li> <li>・ 市がおしゃべりしたくなる情報を整理することが大切</li> <li>・ まち歩きまで発展させて散歩をしながら危険箇所のチェックもできるような取り組みの実施</li> </ul>
5	<p><b>大工仕事が得意なシニアも活躍の場があると良い (〇1 人)</b>          (意見の付箋)          ・ お手伝い、お話しのできる防災</p>	
6	<p><b>一時的に意識が高まってもおさまってしまうため、継続が大切 (〇1 人)</b>          (意見の付箋)          ・ 防災対策は継続させないといけない</p>	
7		<p><b>その他のアイデア</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アプリ×防災: 大和市のローカルな SNS アプリで情報発信</li> <li>・ 音楽×防災: 防災ソングを作曲して音楽の授業で学ぶ</li> <li>・ 教育×防災: 防災の授業をつくり、学生が楽しく学べる機会を創出する</li> <li>・ アニメ×防災: 防災対策のミニアニメをつくって発信する</li> <li>・ ゲーム×防災: 防災をテーマにしたカードゲームや脱出ゲームの実施、VR の利用など</li> <li>・ 料理教室×アウトドア×防災: 料理教室でおいしくて栄養があり、暖かさを感じられるような防災対策を考える</li> </ul>



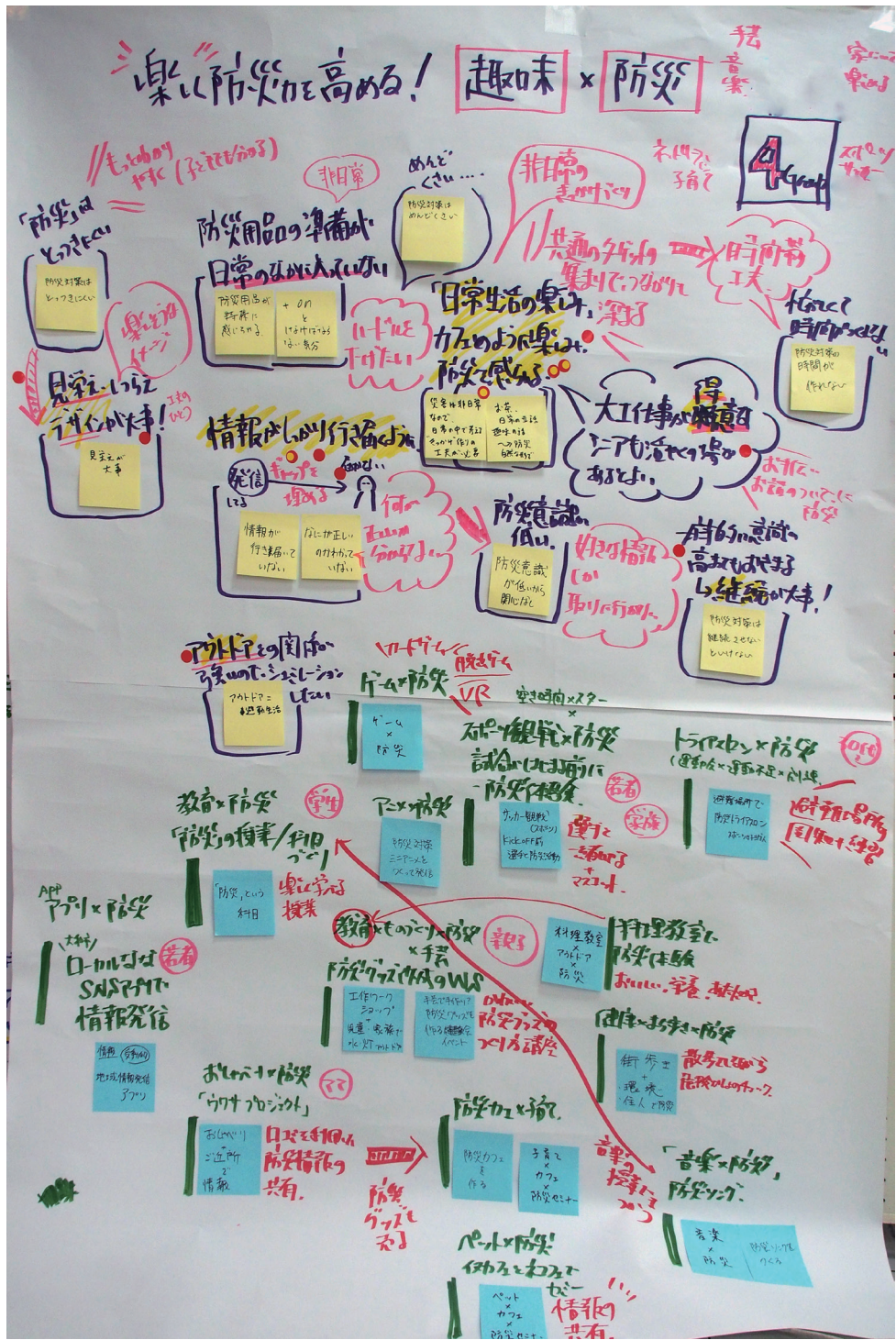
●作業シート

子育て×ものづくり×教育×防災×力な形式 ●●●● 4  
 子育て中の親子が一緒に力な形式のワークショップの開催  
 の中で、防災の防災手芸を作成し、持ち帰り。  
 (見初め→お楽しみ) 子育ての準備と工夫

トイストーリー×運動会×訓練×防災 ●●●● 4  
 運動会訓練の形で防災訓練の開催  
 避難場所の実際の訓練と意識化。  
 (お楽しみ) 力な形式を重視

スポーツ観戦×空時間×スター×防災 4  
 スポーツ観戦の試合開始前の空時間(1分)に  
 登壇マスコットと防災体験の実施。  
 (市とスポーツチームの連携)

おしゃべり×日常×防災 ●●●● 4  
 日常的に行なわれるおしゃべり場面を活用し、  
 防災情報の共有と意識の啓発に努める。  
 (おしゃべり) 防災情報(整理)の活用)



## ■グループ5

### ベッドタウンの防災 ～大切な人やペットを守る～

#### ●議論の流れ

- ・まず、発災直後にメールや携帯電話等の情報通信機器が繋がらない場合も、安否が確認できる方法が必要だという問題提供がなされた。
- ・その具体的な対応として、各避難所における安否情報（紙ベース）を、ドローンを活用して市役所などの情報拠点に集約し、それを発信すればよいのではないか、というアイデアが出された。ドローンについては、最新情報を各避難所間に届けるなど、様々な活用が可能ではないかという期待の声が出された。
- ・次に、災害時の情報収集の手段として有効活用されているインターネットについては、特に高齢者の方は、まだ使えない方も多いという指摘があった。加えて、個々人が災害時に情報収集も含め適切な行動がとれるような個人の防災対応力の向上に対する必要性も指摘された。
- ・その具体的な対応として、インターネットを活用した情報収集方法や、いざというときの対応を、わかりやすく基礎から学べる機会をもつ

と充実させたいという意見が出された。そのため、平日の昼間開催、週1回開催だと働いている方の参加は難しいので、土日や夕方からの講座も増やしてほしいという意見が出された。

- ・最後に、災害時にペットと避難所へ行くことになった場合、ペットと避難者が共存できるようにすることの重要性が指摘された。ペットについては、人見知りで吠える、男の人が苦手、家族以外の人にはなつきにくい、など様々なケースが考えられ、そうしたペットが避難所で予期せぬ行動をした場合、避難者にとって邪魔者扱いされてしまうケースが考えられる。
- ・そこで、日ごろから、ペットが飼い主以外の他人ともマナーを守って生活ができるようなしつけが大切という意見が出された。
- ・全体に共通して、日ごろから災害時を想定して、ご近所や自治会などと個々人がきちんとコミュニケーションを図っていくことが重要という認識が高いグループであった。

課題（論点・個別意見） （◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）	解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
<p>1</p> <p>情報通信機器（PC、携帯）が繋がらない時の安否確認方法が必要である（◎2人○2人）</p> <p>（意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼の時間帯で家族との連絡が取れない？！</li> <li>・家族・友達の安全が確認できない</li> <li>・PCかメールは大切だが電気がないとアウト</li> </ul>	<p>通信が途絶えた時に、ドローンを活用して情報伝達をしよう（シール投票数：7票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローン活用をもう1歩前に進める！</li> <li>・本当に知りたい最新情報を「号外」としてドローンが配布する</li> <li>・各避難拠点間の情報交換でドローンを伝書鳩的に活用する</li> <li>・ドローンで各避難所の安否リストを配る</li> <li>・市役所に情報集約（コントロールタワー）</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電光掲示板やアドバルーンで情報を伝える</li> <li>・自治会情報を集約して発信</li> <li>・あそこに行けば家族がいるだろうという情報を共有</li> <li>・家族と離れて住んでいる場合は、災害時に家族が行きそうな避難場所を調べておくことが大切</li> </ul>



2	<p><b>災害時の行動力や情報収集力を身につけることが大切 (●2人)</b>          (意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が冷静にその場の状況を見て判断できるか?</li> <li>・周りにケガをしている人、高齢者などを助けてあげられるか。(助ける×自分も無事)</li> <li>・ケガ等をした時の対処の仕方。</li> </ul>	<p><b>インターネットを活用した災害時の情報収集方法や対応策をもっと気軽に、もっと基礎からわかりやすく学べる機会を増やそう (シール投票数：3票)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットが苦手、使い方がわからない方も多い!</li> <li>・平日の昼間開催、週1回開催だと働いている方の参加は難しいので、土日や夕方からの講座も増やしてほしい</li> </ul> <p><b>(その他)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民講座</li> <li>・わかりやすいアナログ情報も必要である(例：昔は駅にあったチョークで書ける伝言板)</li> <li>・情報は、かみ砕いて分かりやすく伝えてほしい</li> </ul>
3	<p><b>情報通信機器(PC、携帯)が使えない方でも、安否情報が確認できる方法があるとよい (○2人)</b>          (意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認の方法、できればPC等、電源がいらない手段のものがあったもよい(扱いが苦手な方もいる)</li> </ul>	<p>・市民講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすいアナログ情報も必要である(例：昔は駅にあったチョークで書ける伝言板)</li> <li>・情報は、かみ砕いて分かりやすく伝えてほしい</li> </ul>
4	<p><b>災害時の避難先で人とペット(動物)が共存するための方法は? (○3人)</b>          (意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と動物を避難させる際の衛生上の課題</li> </ul>	<p><b>日ごろからペットが避難した時のことに備えて、ペットのマナー訓練をしておこう (シール投票数：4票)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットのマナーがよければ、周囲の方の理解も得られやすくなる</li> <li>・人見知りで吠えないようにする</li> <li>・日頃のしつけが大切</li> <li>・家族以外の方がダメなペット、男の人が苦手なペットなど様々なケースがある</li> <li>・動物に対してアレルギーがある方もいる</li> </ul>
5	<p><b>地域の人やご近所の方といざという時に助けあえるため、日頃の人間関係を充実させたい (○1人)</b>          (意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の方々と協力しあうことができるか。1人では限界</li> </ul>	
6	<p><b>避難する場所の正確な情報を届ける、共有する方法が欲しい</b>          (意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所の確認。連絡がとれないときに役立つ。</li> </ul>	
7	<p><b>身近に逃げ込める場所があるとよい</b>          (意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なコミュニティごとに駆け込み場所が多めにあってほしい</li> <li>・遠くの親戚より近くの他人</li> </ul>	





## ■グループ6

### ベッドタウンの防災 ～大切な人やペットを守る～

#### ●議論の流れ

- ・ 災害時に限らず、平常時も歩行者やベビーカーを使っている人にとって、歩道に傾斜や凹凸があり使いづらい、また柵が劣化している箇所があり、体の不自由な方が移動するのに支えに使えない、住宅が密集している地域では、道路が狭いなど安全に避難できるのかどうか、まずは避難経路をこの目でチェックする必要があるという意見が出された。
- ・ 安否確認については、できるだけ近所でできるようにしたいが、要支援者名簿を個人情報法保護の関係で共有できない、ご近所同士のコミュニケーションができないといった課題があげられた。一方、マンションの上下階同士で安否を気にし合っているという意見や、希望ヶ丘で高校生が地域の見守り担当を決めていて、地域の若い人が真っ先に動けるようにしているといった取組も紹介され、そうした事例を参考に地域単位で取り組みたいという意見が出された。
- ・ 建物については、耐震性の点検をし、耐震補強工事を促進していきたいが、自分だけやっても地域として取り組まないと災害時の不安は残るといった意見、耐震費用にはお金がかかるため、個人の家で耐震を促すのはなかなか難しいといった課題も出された。
- ・ 帰宅困難に対しては、交通機関復旧後に一斉に帰宅すると混乱を来すのではないかと意見から、空き家の活用や漫画喫茶やカラオケなどが集まりやすく24時間営業のお店を開放するように協定など結び、災害時に一時的に使用できるようにするといったアイデアが出された。

<b>課題（論点・個別意見）</b> <b>（◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）</b>	<b>解決アイデア（短冊・個別意見）</b> <b>（シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）</b>
<p><b>1</b></p> <p><b>安否確保を近所でできないか？/周囲にも関心を持つ（◎2人○2人）</b>            （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所とのコミュニケーションをとることの大切さ →お互いの助け合い精神を</li> <li>・コミュニケーションがとれない</li> <li>・高齢者の方への災害時の対応</li> <li>・住まいの情報にも興味を持つ(周辺情報)</li> <li>・車いす使用者、高齢者の避難を助ける</li> <li>・近所の情報の共有、安否確認が、個人情報保護法がネックになっている</li> <li>・平日の昼間に災害が起きたら、働いている人がいなく困る</li> <li>・発災時の近所同士の役割分担を決めておかなければ…。イザ起きると難しいのではないかな。近所のことも含めて</li> </ul>	<p><b>要介護・要支援者への援助を若者を中心とした組織化して、日ごろから活動していく志でバックアップしよう（シール投票数：12票）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の若い人で担当を決める。近所付き合いをする</li> <li>・地区で手のかかる人を事前に把握しておく（それぞれに担当者を）</li> <li>・要支援者には情報を発信してほしい</li> <li>・希望ヶ丘では地域の見守り担当を決めている。地域の若い人が真っ先に動けるように</li> <li>・日ごろから会話ができるきっかけがほしい。組織にして顔合わせを</li> <li>・マンション上下階で顔が見えないときに確認できるように</li> </ul> <p><b>地域のお祭り等で、近所の人同士で話をするキッカケをつくり、地域交流を深めて、いざというときに備えよう</b>  <b>（シール投票数：1）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が手を挙げるきっかけ</li> <li>・近所同士でつながりを持っておく必要がある</li> <li>・日ごろから会話できるきっかけがほしい。町会単位のお祭りなどで場をつくる</li> </ul>
<p><b>2</b></p> <p><b>建物の耐震性 まずは点検（◎1人○2人）</b>            （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンション、アパートなどの耐震工事</li> <li>・古い建物の倒れる危険を感じる</li> <li>・住宅地なので、火災が起きたときの心配</li> </ul>	<p><b>地域単位で診断を受けよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の耐震性だけでなく地盤強化も必要</li> <li>・自分の家、隣の家は倒壊しないか。建って何年ももう一回確認してみる</li> <li>・建物の耐震には、高い費用がかかる。金銭的には出しづらい人がいるかも知れないので、支援を自治体が積極的にすべき</li> </ul>
<p><b>3</b></p> <p><b>帰宅困難時の混乱</b>            （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の地区から都心、都会の人々がたくさん集まっているので、混乱している。その中で全員が帰宅しようとするので混乱</li> <li>・車や徒歩での避難ではなく自転車での避難ができるよう常駐させておく</li> </ul>	<p><b>帰宅困難時に備えて、空き家の活用ができるように市が交渉し、協定などを結ぼう</b>  <b>（シール投票数：6票）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅が困難な場合、泊まるところが必要になるので、宿泊施設が増えるといい</li> <li>・空き家を活用して、宿泊施設にできないか</li> <li>・帰宅困難になったら無理に動かないその場にとどまる</li> <li>・帰宅ルートを何通りも考える</li> </ul> <p><b>カラオケやまんが喫茶などの宿泊施設などを利用して帰宅困難時の混乱を避けよう</b>  <b>（シール投票数：1票）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガ喫茶やインターネットカフェ、カラオケ、ファミレスなど市が協定し、災害時に活用</li> </ul>

4	<p><b>密集地・道路が狭い (〇2人)</b></p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅が密集していて道路が狭すぎる</li> <li>・自転車の放置。台風の時倒れてしまい、道をふさぐ</li> <li>・歩いてみてはじめて気づく</li> </ul>	
5	<p><b>家族の安否確認</b></p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発災時に混乱して家に帰れない連絡が取れない →どうにかして連絡が取れるように努めるなど</li> <li>・家族(父)が都心で働いているので、災害が起こったときに無事か確かめるのが困難</li> </ul>	
6	<p><b>避難経路を歩いてみてはじめて気づく</b></p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の舗装がでこぼこで、ベビーカーや歩行者が通りづらい。怖い思いをする</li> <li>・ガードレールや柵がさびている。老人などが災害時につかまったら、支えられるか心配だ。点検が必要</li> <li>・元気な人だけが先に避難することがある</li> </ul>	<p><b>実際避難経路をこの目でチェック</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難マップを確認し、実際に避難してみて安全を確認する</li> </ul>
7	<p><b>身の回りの整理</b></p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の中の余分なものは整理等</li> <li>・防災グッズの見直し</li> </ul>	
8	<p><b>飼い主が不在時のペットの避難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師やペットホテルと連携が取れ、ペットを保護する方法を検討する</li> <li>・平日は家に人がいないことが多いので、発災時にペットが無事か心配になる。真っ先に家に帰る</li> </ul>	
9	<p><b>防災訓練に参加する人が限られている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練に参加する人が限られている</li> </ul>	





## ■グループ7

### 地域コミュニティで防災力を高める

#### ●議論の流れ

- ・意見出しでは、自治会同士の連携についての話が出された。現状でもさまざまな活動をしており、自治会が活動の中心となることが確認された。
- ・活動にあたっては、行政の人や消防の人の顔が見えると良い、という意見があった。
- ・活動に来ても偉い人はあいさつだけですぐに帰ってしまう人もいる。できれば話をして地域の人と顔見知りになると良い、という意見もあった。
- ・また、近所の人はどうやって仲良くなり、顔見知りになるかという議論がなされた。
- ・特に今まであまり地域コミュニティと接点がなく、つながっていなかった人に対して普段の付き合いを深めることの重要性が指摘された。
- ・普段の付き合いから、活動への参加につながるか、参加したとして、どうやって続けて参加してもらうか、という議論になった。
- ・若い世代からは、あいさつはするが「参加」はあまりしなかった、という話から、参加したい気持ちはあるが、一度参加してしまうと、その後断りにくくなるのではないかと、という危惧があり、なかなか踏み出せない、という意見があった。
- ・それをどう解決するか？ということを知ったところ、「年に何回か決まっているイベントであれば、自分の生活ペースと照らし合わせて、行けるものに行っても良い」という意見があった。
- ・また、行きたい理由としては、「地元で同世代の友達をつくりたい」、「イベントに行くと仲良くなれると良い」という意見があった。
- ・若い世代からは、さらに、「防災」というと少しハードルが高い、町内会でなにをやっているのか知らない（どこで情報発信をしているのか？）という意見があった。
- ・その解決策として、若い人は回覧板は読まないで、Twitterで情報発信してはどうか、というアイデアが出された。
- ・情報発信については、小中学校のつながりを使って、保護者に伝わると良いのではないかと、という意見が出た。
- ・学校が情報発信の中心となることで、若い親世代にも情報を伝えることができる。
- ・最後に、自助から共助のしくみにするために、地域にいる高齢者の情報を、地域が知っていることが必要との意見が出された。
- ・近年の個人情報保護の傾向によって、高齢者の存在が地域でわからなくなっている。出て来て頂けないとお知らせもできないので、大和市には、ぜひ地域の高齢者の情報を自治会と連携して、知らせてほしい、との意見が出された。



課題（論点・個別意見） （◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）		解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
1	<b>自治会同士の連携が必要</b> （意見の付箋） ・運動会、防災訓練、スタンドパイプ操作などの活動をしている ・趣味の活動団体ともつながっている ・コミュニティセンターでふれあい祭りを実施している ・自治会活動（自主防災組織）で自治会同士が連携している	自治会の楽しそうなイベントの様子を twitter で発信し、まずは活動に参加してもらうきっかけをつくらう（シール投票数：1票）
2	<b>あいさつや会話ができる関係づくりのために、どのように仲良くなるかが課題（◎3人○1人）</b> （意見の付箋） ・今まであまり地域コミュニティと接点がなく、つながっていなかった人へ ・普段の付き合いを深めること ・今まで地域コミュニティに参加してこなかった人に対しての参加のきっかけづくり ・転入者はコミュニティにあまり参加しない傾向があるが、どうしたら良いのか ・高齢、独居の人は地域とのつながりがなくなりがち	学園祭のように準備段階から参加できることで（自分達でつくったものを自分達で売り出す、お勉強っぽくない）自分達で楽しいイベントをつくっていかう（シール投票数：2票）
3	<b>行政等の人の顔が見えるようにする（○2人）</b> （意見の付箋） ・学校で消防訓練（消防署や消防団） ・消防団の人は顔を良く知っているので安心。行政の人も顔が見えるようになってほしい ・市役所、市消防、警察、自治会の顔が見える化によって避難施設の連携強化	自治会の人が小中学校に出向いて、直接説明する。それによって同世代の参加が増える（小中学生に防災イベントを企画してもらう）
4	<b>小中学校など、情報発信のルートをたくさんつくる（○5人）</b> （意見の付箋） ・子どもがいると学校行事などをきっかけに近所づきあいが発生する。それをコミュニティづくりに活かさないか ・（子どもの頃からの）地元のつながりは強い ・学校から保護者に積極的に情報提供をする ・マンションの管理組合で情報発信をする ・サークル、宗教（教会）、活動団体から情報発信をする	情報発信のルートをたくさんつくる。その中のひとつとして「学校」と連携する。保護者にむけて情報発信をする
5	<b>活動に参加してくれる人に負担感少なく参加してもらおう</b> （意見の付箋） ・（防災訓練などに）行ってみたいが一度行くと毎回行かなければいけなくなりそうで、行きにくい ・自分の生活の中で時間がなかなか割けない（参加したいと思うが・・・）	一度地元の訓練などに参加すると次が断りにくくなる（あまりムリに誘わないでほしい）ため、気楽に参加できるように、事前にスケジュール等を伝え、自分の生活リズムにあわせて参加できるようにしよう（シール投票数：1票）



## ■グループ8

### 地域コミュニティで防災力を高める

#### ●議論の流れ

- ・ 地域コミュニティで防災力を高めるための課題として、「地域コミュニティ（自治会等）に参加していない人、参加できない人がいる」という意見が出された。
- ・ 例えば、自治会に入っていないマンション住民は地域の人と知り合う機会がない、また、個人情報関係で介護が必要な人であっても、近所の人には知らない状況がある。
- ・ そこでまず、地域の人々が顔見知りになる組織や機会にはどんなものがあるかを出し合った。
- ・ 「自治会」「消防団」「PTA おやじの会」「社協サロン活動」「NPO 活動」「イベント」等。
- ・ また、「大和スポーツセンター」「コミュニティセンター」「学習センター」など、大和市中で人が集まる場も出し合った。
- ・ 地域の人々が顔見知りになる《組織》《機会》《場》を出し合う中で、「外国人が公共施設を利用して、楽しそうなことをしながらコミュニティづくりをしている」という意見が出た。
- ・ 「楽しくなければ人は参加しない」ことにメンバーが合意したので、それを念頭において、地域の老若男女が顔見知りになるにはどうしたらいいかのアイデアを出し合った。

- ・ まずは、月1回、楽しい活動をしてはというアイデアが出た。楽しい活動やイベントで人を呼び、そこに必ず「防災」についての情報提供などを盛り込んでおくというアイデア。

#### 【月1回防災の日 アイディア】

- 草むしり、花植え活動＋防災
- 異文化食持ち寄りイベント＋防災食（かまどベンチも使ってみる）
- 高校生の集まる音楽イベント＋防災
- スポーツイベント（大和市のスポーツ施設の充実は自慢できる）＋防災  
→年1回は、地区対抗のスポーツ大和杯実施

- ・ しかし、月1回では顔見知りになるのは難しい、一人暮らしの高齢者は人としやべらない日もあるので、日常的に出会える場が欲しいとの意見が出て、日常的な活動のアイデアも出し合った。

#### 【日常적으로出会う場 アイディア】

- 公園でラジオ体操
- 子どものパトロール、挨拶運動
- 避難経路の散歩



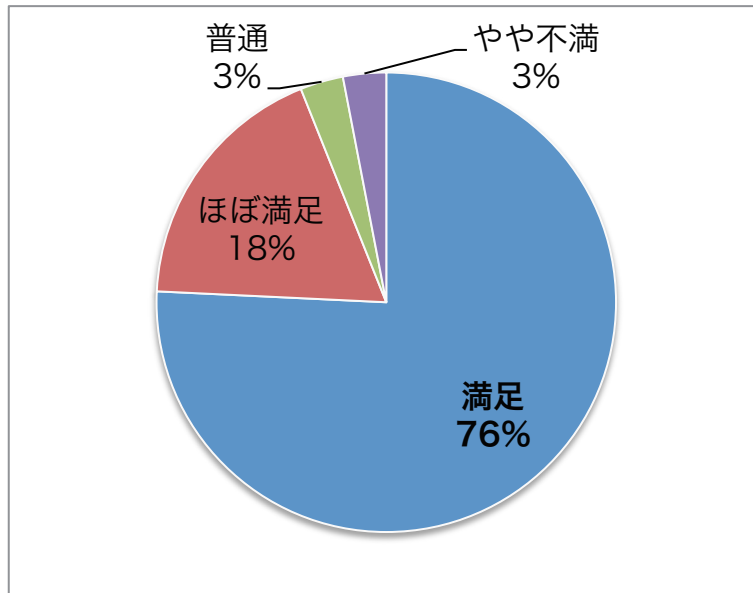
課題（論点・個別意見） （●グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）		解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
1	<p><b>日常的な場が必要（○5人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人が顔見知りになる、日常的な場が必要</li> </ul> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○公園でラジオ体操</li> <li>○子どものパトロール、挨拶運動</li> <li>○避難経路の散歩</li> </ul>	<p>日常的に顔見知りになる活動として、お茶、おしゃべり、待機児童保育を実施して居場所づくりをしよう（シール投票数：11票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和市は空き家が多い</li> <li>・そこを活用して、「居場所」をつくる</li> <li>・市は、空き家を借りたり、居場所運営のサポートをしたりする</li> </ul>
2	<p><b>ご近所で挨拶しない習慣が課題（●2人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お隣に回覧を回す時、玄関に置くようになってしまい、挨拶もできない状況</li> </ul>	<p>日常的に顔見知りになる活動として、そうじ、花壇の手入れ、挨拶運動を実施しよう（シール投票数：4票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回覧をまわすにも、顔をあわせない現状がある</li> <li>・毎日できる、まちの清掃や花壇の手入れ、小学生の通学時に挨拶して見送るなどの活動をすることで、ご近所同士の挨拶をする機会を増やす</li> <li>・市には、挨拶運動を市として取り組むことを宣言してもらおう</li> </ul>
3	<p><b>「月1回の防災の日」などの定期的な取り組みが大切（●2人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽イベント</li> <li>・スポーツイベント</li> </ul>	<p>月1回の防災の日で顔見知りになるための若者も集まる楽しい音楽イベントを実施しよう（シール投票数：2票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和市の歌をつくる</li> <li>・楽しいイベントがあれば、地域に愛着を持つ</li> <li>・地域に愛着が持てれば、防災にも興味が出る</li> <li>・市は、市民参加が進められるように、企画運営する</li> </ul> <p>年1回の防災の日に地区対抗のスポーツ大会「ヤマリンピック」を実施しよう（シール投票数：1票）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども、若者から高齢者まで、住んでいる人が全員参加できるスポーツ大会</li> <li>・地区対抗にすることで、地域の愛情が育まれ、地域の団結力が生まれる</li> <li>・市は、市民参加が進められるように、企画運営する</li> </ul>
4	<p><b>要介護支援者の把握（○1人）</b> （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護支援者リストの作成</li> </ul>	

●作業シート



### 3. 参加者アンケートのまとめ

#### Q.本日の市民討議会はいかがでしたか？（満足・ほぼ満足・普通・やや不満・不満）



満足	25
ほぼ満足	6
普通	1
やや不満	1
不満	0
計	33

#### ●具体的な回答（抜粋）

##### ○普段はできない経験で、想像以上に楽しく刺激になった

- ・想像以上に楽しかった
- ・普段できない経験ができた
- ・本当に刺激になることばかりでとてもよい経験になったから。本当にありがとうございました

##### ○予想以上に色々な方の考えやアイデアを聞き、考えることができて楽しかった

- ・色々な意見を聞くことができました
- ・初めての参加で、もっと眠くなるのかと思っていましたが、予想以上に色々な方の意見を伺え、楽しかったです
- ・今まで防災にはほとんど関心がなかったのですが、色々な人の色々な考えやアイデアを聞いて考えることができた
- ・自分はあまり人と積極的に議論する機会がないので、参加者の意見が聞けて、とても嬉しくて楽しかったです
- ・いわゆる相反するもの同士をアイデアとするA型発想がたくさん出ており、日常生活のみならず、仕事の上でも大変有意義でした

##### ○話し合いの中でアイデアがどんどん広がり、意見を出すことができて楽しかった

- ・正直、意見なんて出せないのではないかと引け目を感じていましたが、皆さんとのお話の中でどんどん広がり、出すことができました。とても楽しかったです



### ○前回とは違った議論ができて楽しかった

- ・ 前回も楽しく議論できましたが、今回は前回と違った議論を楽しめたからです

### ○職業や年代に関わらず、多様な人と意見交換できて勉強になった

- ・ 色々な年代と話せた
- ・ 色々な世代の人の意見を聞いて、勉強になりました
- ・ 3人寄れば文殊の・・・という言葉があるが、色々な世代の発言、見解が面白かった
- ・ 防災についてあまり考えたことがなかったけれど、楽しく話し合いながらたくさんのことを考えることができ、今後の防災に関して自分ができることなどより多くのことを考え、実行し、ためになりそうです
- ・ 高校生から高齢者まで、多様な人の意見を聞くことができ参考になった
- ・ 様々な職業、年代の方と交流ができたから
- ・ 年齢に関係なく同じ議題で意見交換ができたこと

### ○学生など若い人の意見を聴くことができた

- ・ 高校生を交えての意見交換等、楽しい討議会でした
- ・ 若い学生の意見を聞くことができた

### ○グループの人数がもっと多いとよかった

- ・ 私のいたグループは人数が少ないことが多かったので、もっと人数を増やして討論したかった

### ○防災に対する意識を再確認し、関心が高まった

- ・ 防災に対する意識を再確認することができた
- ・ 防災について話し合うことで防災についての関心が高まりました

### ○話し合いによって、防災に限らず、地域を身近に感じることもできた

### ○様々な意見や市の取り組みを知ることができた

### ○緊張したが、発表も楽しんでやれた

- ・ 発表もできて緊張したけど楽しめた。大トリだから少し楽しんでやった

### ○ファシリテーターが上手くみんなの意見を引き出してくれた

- ・ ファシリテーターの方々のおかげで積極的に意見を出すことができました
- ・ グループの責任者が上手にまとめて、みんなの意見を引き出してくれたので色々な意見が出た

### ○様々なバックグラウンドの方から出た意見を市政に役立ててもらいたい

- ・ 色々なバックグラウンドの方から様々な意見や案が出たので、市政に役立てられればと思います

### ○自分の考えの狭さや偏りに気づくことができた

### ○今まで考えてこなかったことについて見直すきっかけになった

- 話し合いの時間が足りないと感じたので、テーマを減らしたほうがいいのではないか
- 話し合いの中で、曖昧だったことを意識化できた
- 防災について身近に感じ、勉強になった
  - ・ 防災を身近に感じることができた
  - ・ 防災のことについてとても勉強になった
- 防災力を高めるよりも、地域力を高めることに意味があるのではないか
- ファシリテーターの参加によって面白い場になった
- 前半の説明は総花的でよくなかった。後半の話し合いはよかったが、発表には課題があるのではないか
  - ・ 市及び企画会社の説明（映像含む）が総花的で、やっと後半にその気がグループに出たか。但し、発表会は終わっている

---

## Q.市民討議会での他のグループの発表をふまえ、追加したいアイデアや話し足りないことがございましたらお書きください。（抜粋）

---

### ●「楽しい防災訓練」に関すること

- ・ 遠くに勤務している方、高齢者の方が参加できるようにして下さい
- ・ 駅に開催のポスターを貼るなど、人の目につくところを探してみる
- ・ 防災訓練と一緒に楽しいイベントを合わせて定期的に続けよう
- ・ 「防災検定」のようなものをつくって、知識、実技の訓練を受けると証明書を発行する。但し、公的資格と混同させることがないように注意が必要か
- ・ 「楽しい」と「訓練」のバランスの取り方
- ・ 防災訓練のネーミングを変えたらどうですか。モチベーションを上げる事はよいアイデア
- ・ 防災視点を伴う街歩き会。どこに消火栓？スタンドパイプ？ラリー

### ●「楽しく防災力を高める」に関すること

- ・ 前向きに生きる生きがい個人個人が持つとよいかも知れません
- ・ 防災をメインにしつつ、色々な世代が楽しめるということを目指したらいいかも
- ・ ドローン
- ・ 避難所一泊体験。夕・朝食（消費期限の近い備蓄食料）をとり、体育館別、教室別で寝てみると、非常持ち出し袋に追加するべきものに気付けるのではないか
- ・ 面白いアイデアがたくさんあった。実現できるかどうかは別にして、発想力を期待したい
- ・ 小さな灯火で安心防犯。工作教室などでペットボトル使用のサボニウス型風車などを普及させられたらいいなと思います

## ●「ベッドタウン防災」に関すること

- ・ 孤立しないよう、自治会等でチェック巡回してほしいです
- ・ 寝に帰るだけの家じゃない、ということを意識させられたらいいな
- ・ 人との関わりが薄くなったことに関して、挨拶をしよう、顔見知りになろう、それから始まる
- ・ 具体的なアイデアではないのですが、子ども、独居高齢者などの災害弱者に力点を置いて下さい
- ・ 若者の活動はいいと思う。地域の情報はプライバシーの問題があり難しい
- ・ 被災者、避難者、各自と役割、仕事のマッチングができるたたき台を想定できるといい

## ●「地域コミュニティの防災」に関すること

- ・ 広報を読んでない方にも伝わるような方法を考えてほしいです
- ・ ヤマリンピック！空き家の活用
- ・ 近所の人と仲良く、親しんで力をつけよう
- ・ 市民が中心になるイベントはいい。市の援助に頼ってばかりはどうかと思った
- ・ 防災協力、井戸・農地登録制度に協力して下さっているお宅に、日頃から感謝を伝えたい
- ・ これまでの水害、地震の際の問題点。早期避難指令、勧告のタイミング。救援物資の配達スピーディ化、指揮系統の確立

## ●その他

- ・ 結果が見えることが一番大切な気がする
- ・ 今は情報がたくさんありますが、そのルートが多様なので、上手く流れない部分もあるかと思います。ラジオ、回覧板から SNS まであらゆるものを使ってほしい
- ・ 皆さんの発想力がすごいと思いました
- ・ 火災予防のため、ブレーカー断ボールの普及。防災訓練の曜日、時間帯が固定されていると盲点も発生しやすく参加できない方もいるかと思う
- ・ 楽しくなければ防災じゃない。義務・責任ばかりでは誰も出席しない
- ・ 表面上でなくもっと議論したい
- ・ 私自身、防災に対して準備は十分と思っておりましたが、防災訓練には出席したことがなく、これからは是非出席したいと思います

**Q.今回が5回目となるやまと市民討議会でしたが、このような取り組みへのご意見や、より参加しやすくなるための工夫・アイデアなどお気づきの点がございましたらお書きください。(抜粋)**

○参加できる人が限られているので、もっと大々的に開催してもよいのではないかと

- ・市の中から無作為に選ばれた人たちで行われているということで、参加できる人が結構限られているのではないかと思います。もっと大々的にやってもいいのではないかと思います
- ・もっとでっかくしても楽しいんじゃないかと思う
- ・より認知度を上げたり、人数をもう少し増やしても、盛り上がりやすく、とても話しやすい環境をつくることができると思います

○来年もまた違うテーマで参加したい

- ・来年もまた違うテーマで参加したいです
- ・次回もテーマはなにかわかりませんが、参加してみたいと思いました
- ・機会があれば、もう一度参加させてもらいます
- ・来年も楽しみたい

○有意義で面白い会だったので、今後もこのような討議会を続けてほしい

- ・これからもこの討議を続けて下さい
- ・今回初めて参加させていただきました。とても有意義な時間でした。今後も続けていただきたいと思いました
- ・面白かったので、この先ずっと続けてもらいたい

○ずっと同じグループで話し合うほうがよいのではないかと

○多くの人にこの取り組みを知ってほしい

○引け目を感じていたが、いざ参加してみるととても有意義だった

○もう少し時間配分を工夫するとよいのではないかと

- ・時間配分の工夫。トライ＆エラーで

○討議会で出た意見が政策に反映された実例があると、もっと参加意欲が高まるのではないかと

- ・こうした場に出てきた意見が実際の政策などに反映された例を公開すれば、参加意欲も高まるのではないのでしょうか

○進行役がとてもよかった

○広報やまとで、この取り組みについて特集を組むとよいのではないかと

- 役所らしさを小さくすると人が集まる、という点に共感した
- 参加者の年代がバラバラだった点がよかった
- 弱者への協力的な意見を聞くことができ心が温かくなった。横浜市等の例を参考に  
して、よりよい制度をつくってほしい
  - ・ グループによって弱者に対する協力的な意見を聞いて心が温かくなりました。横浜市では、高齢者も外出ができるよう交通費の軽減をし、保険（医療費）の削減につなげているとのこと
- 若い人が生き生きと行動していてよかった
  - ・ 初めて参加しました。このようなイベントがあることを知らなかったのですが、若い人達が活発な行動をとってくれたのでとても楽しい会でした
- 案内がもっと柔らかい表現で、参加しやすくなるようなものだとよかった
  - ・ 参加への案内をいただいたら、拒否せず参加できるよう、堅苦しい内容と勘違いするような案内にしない方がよいと思いました。参加させていただきありがとうございました
- 建設的でありながら、和気あいあいとした討議であることをアピールするとよいのではないか
- 論点が多いので、もっと焦点を絞った方がよいアイデアが出たのではないか



(アンケート調査票)

やまと市民討議会

平成28年11月20日(日)

## 参加者アンケート

●本日の市民討議会はいかがでしたか？あてはまるもの1つに○をつけてください。

満足      ほぼ満足      普通      やや不満      不満

○その理由をお書きください。

--

●市民討議会での他のグループの発表をふまえ、追加したいアイデアや話し足りないことがございましたらお書きください。

「楽しい防災訓練」に関すること	
「楽しく防災力を高める」に関すること	
「ベッドタウン防災」に関すること	
「地域コミュニティの防災力」に関すること	
その他	

●今回が4年目となるやまと市民討議会でしたが、このような取り組みへのご意見や、より参加しやすくなるための工夫・アイデアなどお気づきの点がございましたらお書きください。

--

ご協力ありがとうございました！

# 4. 市民討議会の写真





## 5. 大和市の防災対策について [ 参考資料 ]

市民討議会の参加者の方には、市の防災対策についての情報を事前資料として提供したうえで、討議会にご参加いただきました。

大和市が位置する関東南部は、今後30年以内に70%以上の確率で首都直下地震が起こると予想されており、その地震に備えることは、市の重要な取り組みの一つです。また、低気圧の発達に伴う大雨・強風や、台風による被害も市内で発生しています。

市では、備蓄品の整備や防災訓練の実施など、災害に備えて積極的な取り組みをしておりますが、市民一人ひとりが地震に対して備え、被害を減らすことが大変重要です。今回の討議会では、防災に係る市の役割や、市民の皆さんができること、必要な備えなどについて考えてみましょう。

### 1. 災害について

大和市で発生する可能性が高い災害については、主に地震、台風、大雨などが考えられます。

地震は、基本的にいつ起こるか分からないため、自宅の耐震性の確保や、家具の固定など市民自らが普段から備えることが重要です。また、大和市は人口密度も高く、住宅密集地もあるため、地震後の火災に対しても備える必要があります。

一方、台風、大雨は発生してから到来するまで、ある程度時間がかかることから、事前に備えることが可能です。

### 2. 災害による市の被害

これまでも市では様々な災害が発生しています。

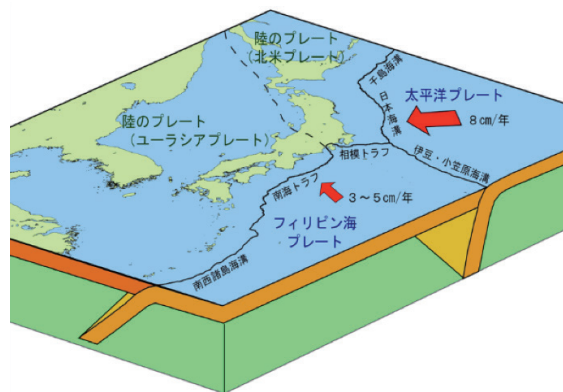
年月日	種別	市の体制・被害状況
2005.09.04 (平成17年)	大雨洪水警報	<input type="checkbox"/> 災害警戒本部設置 避難勧告（よう壁崩れ）1箇所3世帯11人 ※最大60分間雨量 102.5mm/h
2011.03.11 (平成23年)	東日本大震災	<input checked="" type="checkbox"/> 災害対策本部設置 火災1件、負傷3人、家屋被害21棟、 帰宅困難者約300人（94人宿泊）
2011.09.21 (平成23年)	台風15号	<input type="checkbox"/> 災害警戒本部設置 倒木115件、家屋被害29件、公共施設被害45件、 学校関係22件 ※最大瞬間風速41.4m/s
2013.04.06 (平成25年)	大雨洪水警報	<input type="checkbox"/> 災害警戒本部設置 床上浸水14棟、床下浸水49棟、護岸崩落1件、 道路冠水23件（通行止め11件）、車両水没3件
2014.10.05 (平成26年)	台風18号	<input type="checkbox"/> 災害警戒本部設置 床上浸水18棟、床下浸水14棟、 道路冠水7件（通行止め5件）

## 3. 地震の概要

近年、日本各地で地震が発生していて、甚大な被害が出ています。日本は世界でも有数の地震多発地帯であり、また、地震は予測が非常に難しく、発生した時点で大きな被害を受けることが想定されるため、一人ひとりが地震についての正しい知識を持つことが大切です。

### ④ 地震発生メカニズム

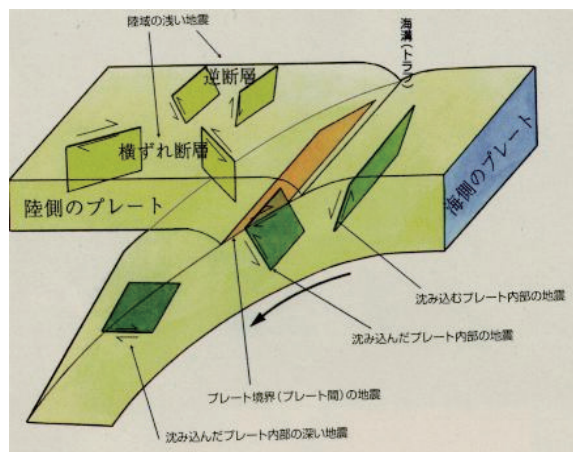
日本周辺では、海のプレートである太平洋プレート、フィリピン海プレートが、陸のプレート（北米プレートやユーラシアプレート）の方へ1年あたり数センチメートルの速度で動いており、陸のプレートの下に沈み込んでいます。このため、日本周辺では、複数のプレートによって複雑な力がかかっており、世界でも有数の地震多発地帯となっています。



(出典：気象庁)

### ① 「プレート境界型地震」または「海溝型地震」

陸側のプレートの下に海側のプレートが曲がりながら入り込んでいき、極限に達することで元に戻る力が働くために急激なずれが生じて発生する地震です。大きな地震になるとその規模はマグニチュード7や8クラスとなり、広範囲で強い揺れを引き起こし甚大な被害をもたらすほか、海底で発生すると津波を引き起こすこともあります。



(出典：気象庁)

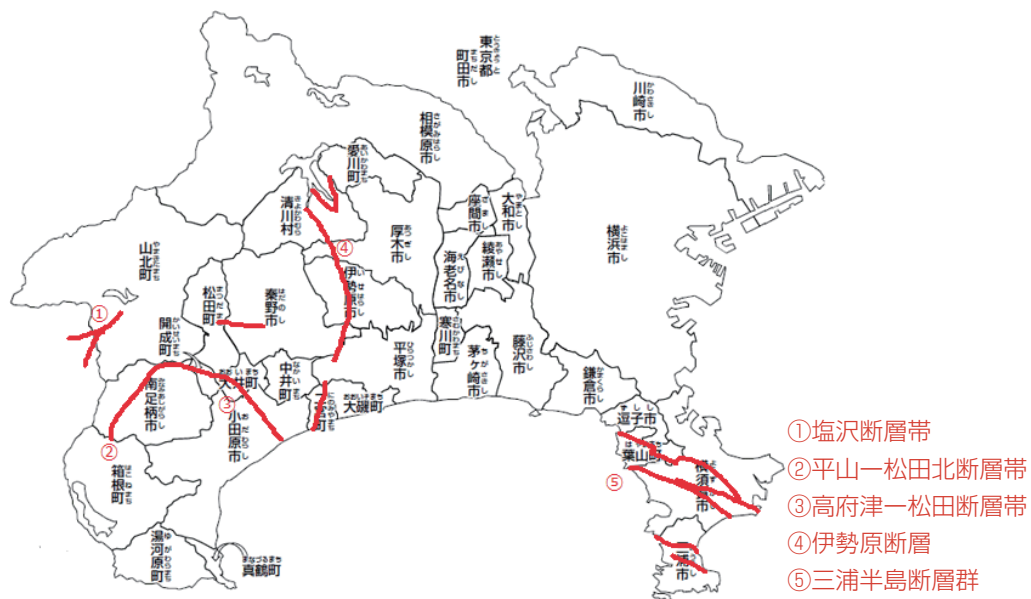
例) 関東大震災、東南海・南海地震、スマトラ島地震、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）など

## ② 「直下型地震」または「内陸型地震」

プレートの内部で活断層と呼ばれる断層に異変が生じることで発生する地震です。陸地の下にある活断層で生じる震源の浅い地震であることから、「活断層型地震」とも呼ばれます。

「プレート境界型地震」と比較すると地震の規模は、マグニチュード6から7とやや小さめですが、都市の真下で生じると被害が大きくなる場合があります。阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）、新潟県中越地震、熊本地震などはこのタイプの地震です。

神奈川県内には、塩沢断層帯や三浦半島断層群等の活断層があることが調査により判っていますが、大和市内では活断層は発見されていません。



## ④ 震度とマグニチュードの違い

### ① 「震度」

ある場所での地震による揺れの強さを震度といい、0～4・5弱・5強・6弱・6強・7の10段階に分かれています。

国内で震度7を記録した地震には、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）（平成7年）、新潟県中越地震（平成16年）、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）（平成23年）、熊本地震（平成28年）（※2回）があります。

### ② 「マグニチュード (M)」

地震そのものの大きさ、すなわち地震のエネルギーの大きさを表す数値をマグニチュードといいます。Mの値が1大きくなるとエネルギーは約32倍に、Mの値が2大きくなるとエネルギーは1000倍になるといわれています。

例：阪神淡路大震災・・・M7.3、東日本大震災・・・M9.0

## ④ 今後大和市で想定される地震

【被害想定】	東海地震	首都直下地震	大正型関東地震
マグニチュード	8クラス	7.3クラス	8.2クラス
大和市の予想震度	5強～5弱	6弱	6強
30年以内発生確率（最大）	70%	70%	ほぼ0～5%
説明	事前の予知が可能と考えられている		関東大震災（1923年）の再来
揺れによる家屋被害	全 10棟未満 半 10棟	全 920棟 半5,280棟	全 9,060棟 半12,270棟
死者	0.5人未満	50人	420人
負傷者	20人	1,360人	4,730人
避難者数～3日後	40人	15,400人	84,980人
出火件数	0.5件未満	10件未満	30件
焼失棟数	0.5棟未満	390棟	3,060棟
帰宅困難者	9,750人	9,750人	9,750人



## 4. 災害に対する市の取り組み

市では、災害対策基本法に基づき、地域防災計画を策定し、地震や風水害等の災害対策に関し、市及び関係機関が対応すべき事務又は業務についての総合的な指針を定めています。市民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、防災の第一義的責任者として、各施設や機関（行政機関、公共機関など）、市民、自衛隊の協力を得て、防災活動を実施します。

また、業務継続計画を定めており、必要な人員や資機材等を必要な場所に的確に投入するための事前の準備体制と事後の対応力の強化を図っています。

### ④ 災害対策本部

災害が発生、または発生のおそれがある場合、市長をトップとする災害対策本部を設置し、情報の収集及び災害予防及び応急対策の方針を定め実施します。

### ④ 市民への情報提供

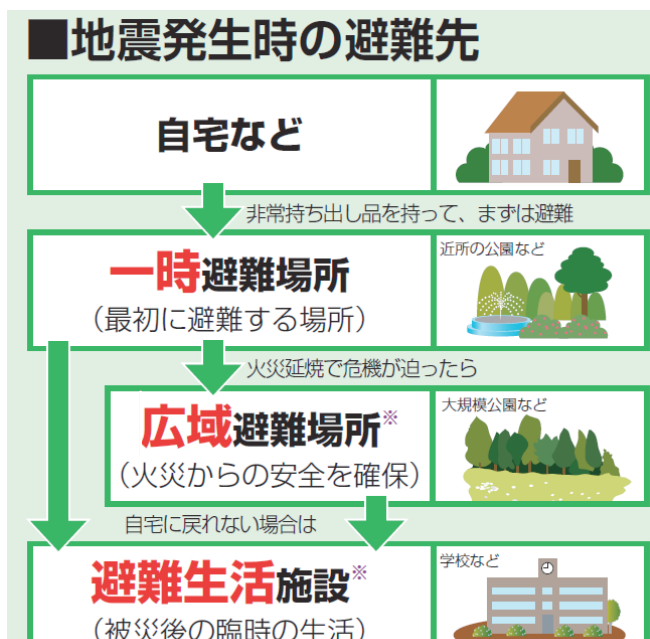
市では、市民へ迅速かつ確実な情報を伝達するため次の手段を確保しています。

- 報道機関等（テレビ、ラジオ、インターネットなど）
- 防災行政無線（市内89か所）※フリーダイヤル 0120-112-933
- FM やまと（77.7MHz） 防災行政無線の情報を番組内で放送します。
- J:COM 11ch（ケーブルテレビ）
- やまとPSメール（t-yamato@sg-m.jp）※要事前登録
- 市ホームページ（<http://www.city.yamato.lg.jp>）
- 災害用伝言ダイヤル（171）、携帯電話災害用伝言板
- 携帯エリアメール

## ● 避難場所

市は、災害の種別やその時々状況に応じた避難場所を定め、防災マップ、市ホームページ、防災訓練等を通じて市民への周知に努めています。

区分		避難場所の性格	指定主体	具体的な場所
指定緊急避難場所		異常な現象の種類ごとに政令で定める基準に適合した、安全が確保できる場所または施設	国の定める基準により市が指定	広域避難場所や避難生活施設など
一時避難場所		災害の発生により、まず避難して、災害の状況と住民同士の安否を確認し、地域内で助け合う拠点となる場所	各自主防災組織が指定	近くの公園、空き地、学校等のオープンスペース
広域避難場所		大火災の発生という最悪の状況下で、火災が延焼拡大しても輻射熱や煙に冒されることなく安全が確保できる場所	県の定める基準により市が指定	引地台公園、大和ゆとりの森、泉の森など13か所
指定避難所	避難生活施設	災害に伴い家屋の倒壊、焼失により帰宅できない被災者が臨時に生活を行う収容施設	市が指定	小中学校、高校など33か所
	特定指定避難所	避難生活施設に収容することが困難な要配慮者等を収容するための施設	市が指定	コミセンなど23か所
一時滞在施設		帰宅困難者に休憩場所や情報の提供を実施する受け入れ施設	市が指定	各学習センター（林間、生涯を除く）、芸術文化ホール、草柳小学校及び協定締結先の市内事業所



### 「わが家の防災マップ」には命を守る情報が満載

非常持出品や備蓄品、避難場所、家の内外の安全対策、災害発生時の初期行動などがチェックできます。

市役所危機管理課や市の公共施設で無料で配布しています。





体育館での避難所の開設



授乳室・着替えに使用する簡易部屋



食事メニューの貼り出し

## 公的支援制度

被災者の生活再建に向けた取り組みを支援するため、各種の支援制度を定めています。

自然災害で被害を受けた場合の主な支援制度

	制度(主な窓口)	概要
住まいが損壊	被災者生活再建支援金 (市区町村)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災の程度に応じて支給(基礎支援金) 全壊など100万円、大規模な半壊50万円</li> <li>再建方法に応じて支給(加算支援金) 建設・購入200万円、補修100万円、 賃借(公営住宅除く)50万円</li> </ul>
家族が死亡・ケガ	災害弔慰金 (市区町村)	<ul style="list-style-type: none"> <li>死亡者の遺族に支給</li> <li>死亡者が生計維持者なら500万円、 その他は250万円</li> </ul>
	災害障害見舞金 (同)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度の障害を負った人に支給</li> <li>生計維持者は250万円、その他は125万円</li> </ul>
仕事を失った	雇用保険の失業等給付 (ハローワーク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>再雇用前提の離職も失業と認定し受給対象に</li> <li>事業所被災で仕事を休んでいる間も対象に</li> </ul>
支払いが困難	地方税の負担軽減 (市区町村)	被災の程度に応じて住民税、固定資産税、自動車税などを軽減、免除、納付猶予
	医療・介護保険の負担軽減 (加入する制度の窓口)	収入減などで負担が困難な場合、保険料や医療費の窓口負担分を減免、支払い猶予
就学が困難	小・中学生の就学援助 (都道府県、市町村、学校)	学用品費、新入学用品費、通学費、校外活動費、学校給食費などを援助

(注)適用を受けるには細かな基準がある場合も

(出典：NIKKEI STYLE)



## ④ 防災、減災のための備え

災害における被害を少しでも減らすため、様々な備えをしています。

### (1) 災害に備える体制づくり

#### ◎協定（自治体、企業等）

市では、災害に備えて自治体、公共機関、市内事業所等の関係機関とさまざまな協定を締結しています。

#### ◎避難生活施設運営委員会

避難生活施設の運営を円滑に行うため、自主防災組織の代表、施設管理者及び市職員からなる避難生活施設運営委員会を組織し、自主的な運営を行うこととしています。

#### ◎防災協力井戸登録制度

飲料水のほか、特に洗濯やトイレ排水といった「生活用水」の確保のため、市民が所有する井戸の水を、大規模災害時に近隣の被災者へ、「生活用水」として提供いただける井戸を「防災協力井戸」として登録しています。

#### ◎防災協力農地登録制度

市民の安全の確保と円滑な復旧活動を実施することを目的に、市民が緊急的に逃げ込める避難空間や発災後の復旧用資材置場等として活用できる農地を防災協力農地として登録しています。

#### ◎地域の防災活動

市内の自治会は、地震などの災害による被害の防止及び軽減を目的に、自主防災組織を組織しています。自主防災組織では、災害に備え、防災用資機材を整備し、消防署、地域の消防団、近隣自主防災組織などと連携し、防災訓練を実施しています。

現在、市内の150すべての単位自治会で自主防災組織が組織されています。



地域の防災訓練のようす

## (2) 非常時のための物品

### ◎備蓄品（食料、その他）

備蓄品計画に基づき、避難生活施設（指定避難所）や地域活動拠点等に設置してある防災備蓄倉庫に災害用非常食、災害対策用資機材を備蓄しています。



備蓄倉庫

### ■食料（目安：一人1日あたり3食×3日分）

- ①缶入りパン ②おかゆ、アルファ化米
- ③粉ミルク

### ■生活物資等（避難生活施設にあるもの）

- ①仮設トイレ／携帯トイレ ②毛布 ③発電機 ④投光器 ⑤保健衛生用品 ⑥防災シート
- ⑦飲料水運搬容器 など

### ■飲料水等（初動期目標：一人1日あたり3ℓ×3日分）

- 飲料水： ①災害用指定配水池（大和配水池、上今泉配水池）  
 ②飲料水兼用貯水槽（市内11か所）  
 ③公共施設受水槽  
 ④ペットボトル（乳児用）

※①～③合計で約1,300万ℓとなり、全市民が被災した場合で計算すると約18日分が確保されています。

### 生活用水：①学校プール、防災井戸水（プールのない学校）

- ②井戸水（個人保有井戸など登録制）



### 【市の備蓄品例】

水、アルファ化米、パン、粉ミルク、アルミ毛布、携帯トイレ



## ◎スタンドパイプ整備事業

大規模地震が発生したとき、人口密度が高い大和市では、火災の延焼阻止が大きな課題です。同時多発火災では、道路の損傷や交通状況によっては、消防署や消防団の対応が困難な場合も想定されます。このため、市民（自主防災組織）の皆さんが、消火栓や排水栓などを使用して直接消火できる「スタンドパイプ消火資機材」を市内の自主防災組織、コンビニ等に配備しています。

## 地域を守る～スタンドパイプ消火資機材

大規模地震発生時、人口密度が高い本市にとって最も恐ろしいのは火災です。同時多発火災で消防署・消防団の対応が困難な場合などにも初期消火・延焼防止活動ができるよう、市は、スタンドパイプ消火資機材の配備を進めています。老若男女問わず使えますので、配備場所や使用方法を確認しておきましょう。



使用方法は、市のホームページの動画でも公開しています（通信料は利用者負担となります）。



消火栓などに接続して使用するスタンドパイプ

### ■市内のスタンドパイプの配備場所

- ◎コンビニ(24時間営業の設置可能な店舗)
- ◎147の自主防災組織
- ◎大和駅、中央林間駅
- ◎すべてのコミセン

### スタンドパイプの使用方法



## (3) 被災してしまったときのための訓練

### ◎大和市総合防災訓練

大規模な地震災害を想定し、市、防災関係機関、自主防災組織が緊密かつ有機的な連携を図り、市民の防災意識の高揚と防災行動力の向上を目的として毎年8月下旬に実施しています。

また、平成26年度からは、誰もが参加できる体験型プログラムを中心としたフェスティバル方式を採用しています。

## 「防災フェスタ2016」を開催しました

市は、大和市総合防災訓練「防災フェスタ2016」を8月27日、市立林間小学校で開催。市職員や市民など約1,300人が参加しました。

同訓練は、大規模災害に備え、防災に関する知識や技術を身に付けてもらうことを目的に実施。来場者の皆さんには、会場内を自由に回り、防災に関するさまざまな訓練や体験をしてもらいました。



「地震体験車」による震度7までの地震体験



長期の避難生活が必要ときに役立つ段ボール製のベッド

**災害に備え、いざというときの対処法や非常用持ち出し品を日頃から確認しておきましょう。**

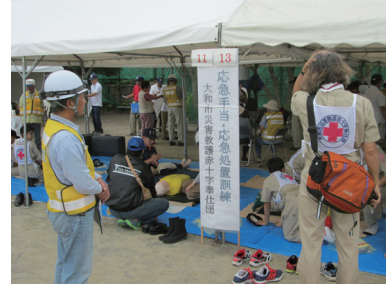
問い合わせは▶市役所危機管理課危機対策担当 ☎(260)5728 ☎(261)4592。



スタンドパイプ



バケツリレー



応急手当訓練



訓練会場



地震体験車（起震車）



消火訓練

### ◎帰宅困難者等対策訓練

大規模災害発生時に市内ターミナル駅周辺で発生した帰宅困難者への対応を図るため、関係機関の協力のもと「大和市帰宅困難者等対策協議会」を設立し、相互の情報連絡体制の確立と駅周辺における混乱防止対策を検討しています。また毎年、対策の検証と各関係機関との連携強化を目的に「帰宅困難者等対策訓練」を実施しています。

### ◎地域防災訓練支援事業

自主防災組織の要請と訓練習熟度に合わせた初期消火訓練、負傷者救護訓練、心肺蘇生訓練、体験訓練等地域防災訓練の指導を実施します。

## (4) 災害に備えるための補助・支援

### ◎防災資機材補助事業

防災活動の強化向上のため、自主防災組織に対し、防災資機材購入に要する費用を補助します。

### ◎木造住宅耐震改修工事費等補助金制度

耐震補強工事に要する費用の一部を補助しています。

### ◎家具転倒防止器具取り付け支援事業

家具類の転倒による被害を最小限に抑えるため、転倒防止対策が難しい高齢者のみの世帯や障がいをお持ちの方がいる世帯などを対象に、寝室や居間などの家具に転倒防止器具などを無償で取り付けます。

## ◎耐震診断費補助金制度

耐震補強工事の要否を判断するための、専門家による精密診断の費用を補助する制度です。

## ◎避難行動要支援者支援制度

自分ひとりでは災害時に避難が難しい高齢の方や体の不自由な方に対し、隣近所が助け合って速やかに避難するしくみを作るための制度です。

## (5) 各家庭に必要な災害への備え

### ◎各家庭での備蓄

今後30年以内に首都直下地震が発生する確率は約70%といわれています。東日本大震災などの教訓を踏まえ、今一度、大地震への備えを確認しましょう。

### 自分を守る～非常用持ち出し品を再確認

<input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 携帯トイレ <input type="checkbox"/> トイレトペーパー <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 救急セット <input type="checkbox"/> 常備薬、持病薬 (おくすり手帳も) <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<div style="background-color: #f44336; color: white; padding: 2px; font-weight: bold;">最低 3日分</div>	<input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> 携帯電話 (充電器も) <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> レインコート <input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 本人確認書類 <input type="checkbox"/> 健康保険証	<div style="text-align: center;"> <h4 style="color: #f44336;">携帯トイレの使用方法</h4> <p>① 「携帯トイレ」を袋から取り出す                  ② 既存のトイレなどにセットする                  ③ 使用後、薬品を入れて固める                  ④ 燃やせるごみとして処分</p> <p>携帯トイレは、防災用品販売店、大型ショッピングセンターやホームセンターの防災コーナーなどで1個当たり100円～200円で購入できます。</p> </div>
---	---	--	--

非常食の賞味期限なども確認しよう

災害情報はFMやまと(77.7MHz)で

### ◎ペットの救護対策

災害が起こったときに最初に行うことは、まずは自身や家族の安全確保ですが、ペットを飼育されている方はペットの安全確保についても、普段から考え備えておく必要があります。

市では、環境省「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」に基づき、ペットと一緒に避難すること(同行避難)を基本とした、ペットの救護対策を進めています。

## (6) その他

### ◎トピック

- ・大規模災害発生時に「ドローン」を活用する災害協定を締結(平成28年9月)
- ・王子コンテナ株式会社東京工場と災害協定を締結(平成28年8月)
- ・防災用テントなどを新たに備蓄、5人用30張り、2人用10張り、マット170枚など
- ・大和圃場跡地を、防災機能を備えた公園として整備(平成30年度完成予定)
- ・大和市のホームページでも様々な防災情報を公開しています

< <http://www.city.yamato.lg.jp/web/purpose/life/bousai.html> >



やまと市民討議会  
- 大和市の防災力を向上させるためのアイデア編 -

# 報告書

(平成28年度 第2回)

平成29年1月

発行 大和市 政策部 総合政策課  
〒242-8601 神奈川県大和市下鶴間 1-1-1  
電話 046-260-5304

